



# SSCの現況 2023

株式会社 しんきん情報システムセンター  
The Shinkin Banks Information System Center Co.,Ltd.



# ごあいさつ

取締役社長 四沖 肇

皆様には、平素より私ども(株)しんきん情報システムセンター(以下「SSC」と略称します。)をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年も、皆さまに当社へのご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「SSCの現況2023」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸甚でございます。

2022年度を顧みますと、わが国の金融システムを取り巻く環境は、デジタル化の進展に伴い、オープンAPI、AIなどの新しい技術やクラウドサービスを利用した金融サービスへの取組みが活発化し、スマートフォンを利用した新しいサービスが次々と誕生するとともに、サイバー攻撃や不正アクセスを通じたコンピュータウイルスの感染経路が多様化するなどセキュリティ強化に向けた取組みがますます重要になってきています。

こうした中、当社では、信用金庫業界のシステム中枢センターとして、全国の信用金庫が地域金融機関に求められる機能を十分に発揮していくための安全かつ適切なシステムサービスの提供に努めてまいりました。

具体的には、しんきん法人IBシステムの操作画面のリニューアル対応(5月)、しんきん共通認証サービスの提供(9月、12月)、投信窓販共同システムにおける制度対応(2023年1月)、しんきんオープンAPI共通基盤システムの更改対応(12月)、基幹系オープンシステムの更改対応(2023年1月)、しんきん法人IBシステムにおける電子証明書認証局システムの更改対応(2023年1月)、FaceToFaceネット(インターネット接続サービス)の更改対応(2023年3月)等を行いました。

これらの事業活動の結果、営業収益については、しんきんIBシステムやCDオンライン提携システムなど主要サービスの利用料収入が堅調であったことから、前年



度比269百万円増収の20,212百万円となりました。

一方、営業費用については、FTFネット(クラウド接続サービス)の提供開始などによる設備使用料および保守料の増加、ならびにしんきんIBシステムの機器更改における検討対応等にかかる業務委託費の増加などにより、前年度比252百万円増加の19,217百万円となりました。

この結果、営業利益は前年度比16百万円増益の995百万円となりましたが、経常利益は前年度比39百万円減益の976百万円、当期純利益は前年度比28百万円減益の665百万円となりました。

今年度におきましても、信用金庫を取り巻く経営環境が一層厳しさを増す中、業界のシステムセンターとして、役員・社員一丸となって、システムの安全性・信頼性を確保しつつ、中長期的な観点から既存サービスの見直しや新しいサービスの開発に取り組むことで信用金庫およびその顧客が安心で利用しやすいシステムサービスを提供することにより、信用金庫が地域において最も信頼される金融機関となれるよう努めてまいりますので、引き続きご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

## SSCの事業

基本方針／経営方針／ビジョン／会社概要	2
SSCの役割	3
SSCが提供する主要システムサービス一覧	5
主要システムサービスの概要図	6

## 2022年度 事業概況

主要システムサービスの売上高・取扱件数等／財務状況	14
2022年度の主な取組み	16

## 2023年度 事業計画

2023年度事業計画 事業施策	18
ことら中継サービスの提供／Bank Pay中継サービスの提供	20
FaceToFaceネット(インターネット接続サービス)の更改に併せた機能強化	21

## 経営管理体制

コーポレート・ガバナンスの状況	22
コンプライアンスへの取組み／個人情報保護への取組み	23
リスク管理への取組み	24
業務継続体制の整備	25

## 資料編

### 財務データ

損益計算書	27
貸借対照表	28
重要な会計方針に係る事項に関する注記(第39期)	30

### 統計データ

主要システムサービスの取扱件数等・利用金庫数の推移	31
---------------------------	----

### コーポレートデータ

株主信用金庫一覧	34
組織図／常勤役員・社員数／役員	36
沿革	37

## 基本方針

業界機械化体制の中核機関として  
信用金庫にふさわしいシステムサービスの  
提供を行い信用金庫の発展に寄与する

## 経営方針

- 1 ネットワークシステムの拡充
- 2 共同開発・共同利用の推進
- 3 効率的なシステムの構築と安定稼動
- 4 働き甲斐のある職場環境の醸成

信用金庫をひとつのネットワークで結び、  
信用金庫にふさわしいバンキングシステム基盤を構築します。

### SSC 会社概要

#### ■名称

株式会社しんきん情報システムセンター  
The Shinkin Banks Information System Center Co.,Ltd.

#### ■所在地

本社 〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7  
八重洲ファーストフィナンシャルビル12階  
TEL.03-3245-1211(代) FAX.03-3270-8904

厚木センター 神奈川県厚木市  
神戸センター 兵庫県神戸市

#### ■設立

1985(昭和60)年2月19日

#### ■資本金

払込済資本金 45億円

#### ■資本準備金

15億円(発行済株式数 9万株)

#### ■株主

全国の信用金庫  
信金中央金庫

#### ■常勤役員・社員数

251名(出向者含む 2023年7月1日現在)

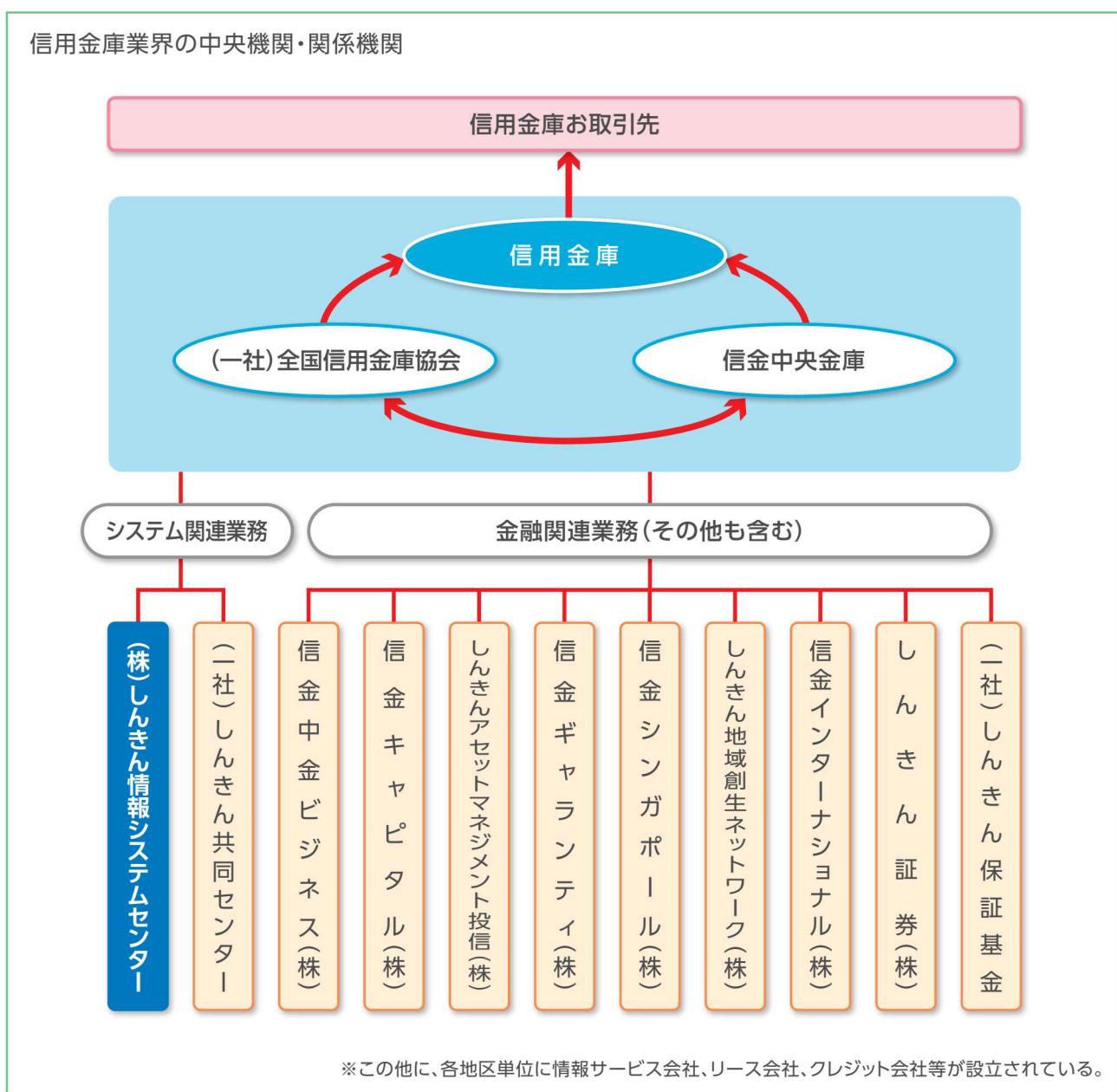
## SSCの役割

SSCは、信用金庫の多様な業務をシステム面からサポートしています。

現在、信用金庫業界においては、全国信用金庫協会、信金中央金庫をはじめとする中央機関や様々な関係機関（下図参照）が設立され、それぞれがその機能・役割を果たすことにより、業界の総合力発揮に努めています。

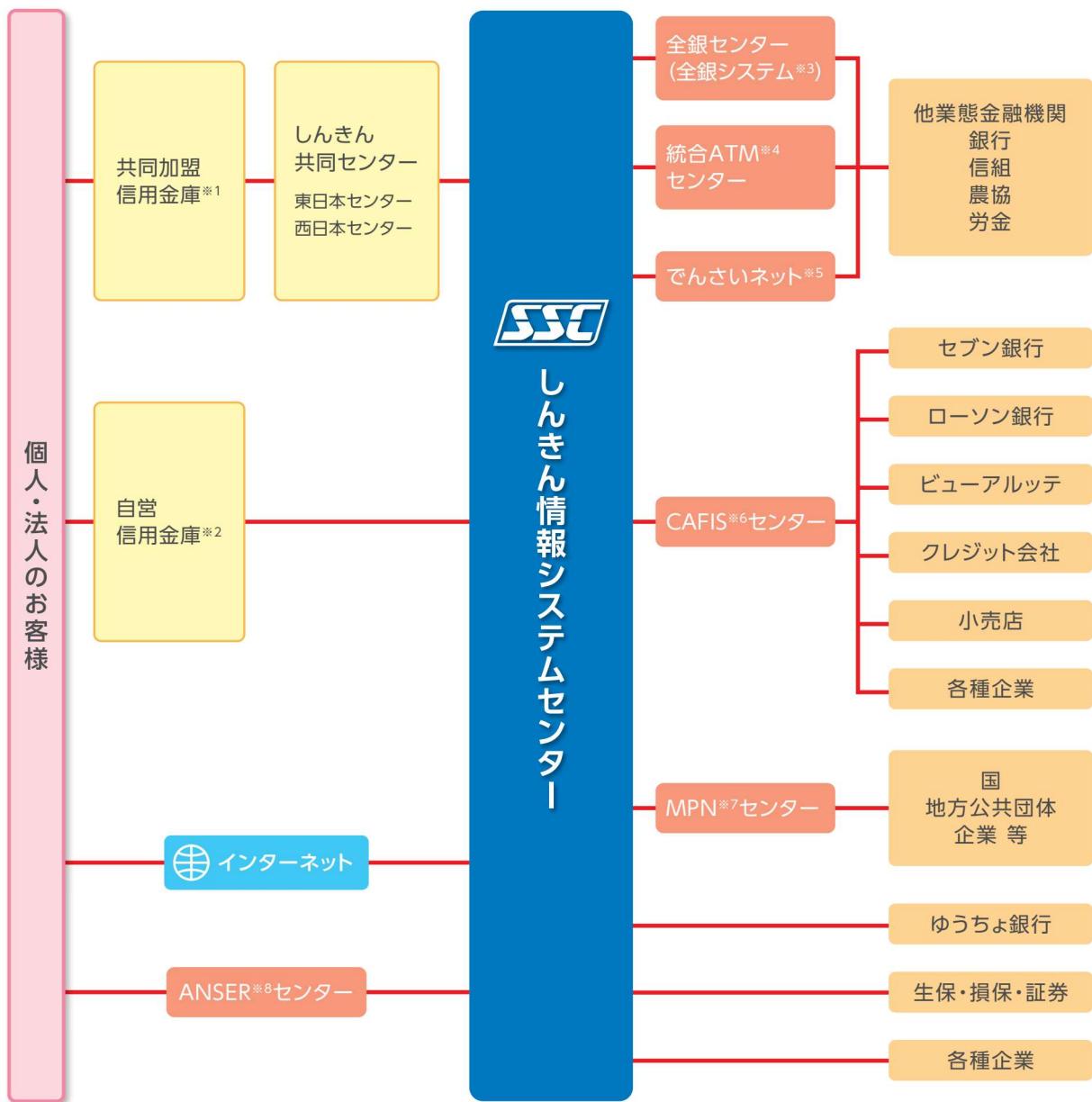
その中で当社は、1985(昭和60)年に「信用金庫業界独自の通信ネットワークシステムを構築し、それにより信用金庫らしいバンキングシステムを実現する。」ことを役割とする業界機械化体制の中枢機関として、全国の信用金庫と信金中央金庫を株主として設立されました。

以来、信用金庫業界における全国信用金庫データ通信システムやCDオンライン提携システム等の独自のオンラインネットワークシステムの開発を行うとともに、信用金庫業務の高度化・多様化に対応したしんきんインターネットバンキングシステムや投信窓販共同システムなど各種システムサービスを提供することで、信用金庫の業務をシステム面からサポートしています。



## SSCにおける通信ネットワーク構成図

SSCは、業界内の接続センターとして信用金庫を相互に結ぶとともに、業界の対外接続センターとして信用金庫業界と他業態や企業などを結ぶ通信ネットワークを構築しています。



\*1 共同加盟信用金庫:しんきん共同センターの東西2センターに設置されたシステムを共同で利用する信用金庫

\*2 自営信用金庫:信用金庫単独でシステムを設置し利用する信用金庫

\*3 全国銀行データ通信システム(全銀システム):日本国内の金融機関相互の内国為替取引をオンラインで処理するシステム

\*4 統合ATMスイッチングサービス:全国の都市銀行や地方銀行、信用金庫などの金融機関が保有するCD・ATMを相互接続する中継システム

\*5 でんさいネット:全国の都市銀行や地方銀行、信用金庫などの金融機関が参加している電子債権を記録するシステム

\*6 CAFIS:クレジットカード・デビットカード取引等の電文を中継するカード決済総合ネットワークシステム

\*7 MPN(マルチペイメントネットワーク):各種の料金・税金などを収納する企業・官公庁等と各種金融機関を接続するネットワークシステム

\*8 ANSER:金融機関とお客様との連絡をコンピュータ処理するシステム

# SSCが提供する主要システムサービス一覧

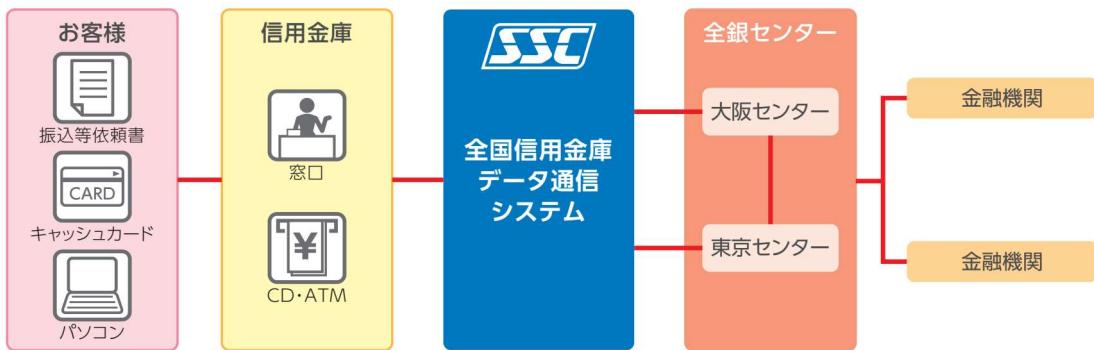
提供開始時期	お取引先向けサービス 信用金庫とお客様の取引を支える システムサービスを提供しています	利用金庫数 (2023年3月末)	信用金庫向けサービス 信用金庫の業務をサポートする システムサービスを提供しています	利用金庫数 (2023年3月末)
1985年 3月 (昭和60年)	全国信用金庫データ通信システム (全信金システム)	254		
	CDオンライン提携システム	254		
8月	しんきん共同自動通知(ANSER) システム	241		
1986年 3月 (昭和61年)			しんきんデータ伝送システム	254
12月			しんきん個人信用情報システム	252
1987年11月 (昭和62年)	ATMキャッシングシステム	252		
1996年 5月 (平成 8年)			インターネット ホームページサービス	223
1998年 3月 (平成10年)			Face To Faceネット	254
12月	投信窓販共同システム	223		
2000年 3月 (平成12年)	デビットカードサービス	254		
2002年 3月 (平成14年)	しんきん個人インターネット バンキングシステム	247		
2003年 7月 (平成15年)	しんきん法人インターネット バンキングシステム	249		
2005年 5月 (平成17年)	ペイジー口座振替受付サービス	254		
2008年 5月 (平成20年)	ネット口座振替受付サービス	254		
	しんきん 電子マネーチャージサービス	183		
2013年 2月 (平成25年)	しんきん電子記録債権システム	253		
2014年 4月 (平成26年)			JICC個人信用情報システム	133
2017年 3月 (平成29年)	スマホ口座開設サービス	42		
2018年10月 (平成30年)			しんきんIB不正取引検知サービス	246
12月	全信金EDI中継システム	80		
2019年 2月 (平成31年)	しんきんオープンAPI 共通基盤システム	247		
4月	しんきんバンキングアプリサービス	58		
	しんきん即時口座振替サービス	254		
2022年 3月 (令和 4年)			FTFクラウド接続サービス	6
9月	しんきん共通認証サービス (共通IDサービス)	44		
12月	しんきん共通認証サービス (eKYC本人確認サービス)	4		

# 主要システムサービスの概要図

## 全国信用金庫データ通信システム

お取引先向けサービス

全国の信用金庫および全銀センターと接続して、信用金庫間および他業態金融機関との間の内国為替取引データの中継を行うサービスです。



## CDオンライン提携システム

お取引先向けサービス

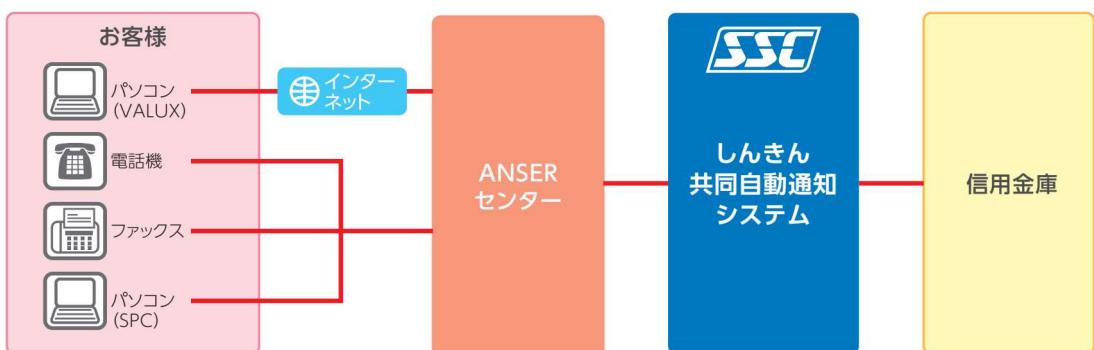
全国の信用金庫、MICS<sup>(注)</sup>加盟の金融機関、ゆうちょ銀行およびセブン銀行等(以下「提携金融機関」と称します。)のCD・ATMを相互に接続することにより、提携金融機関の発行するキャッシュカードを保有するお客様が、そのカードを利用して、提携金融機関のいずれのCD・ATMでも現金の支払や残高照会等を行うことができるサービスです。



## しんきん共同自動通知(ANSER)システム

お取引先向けサービス

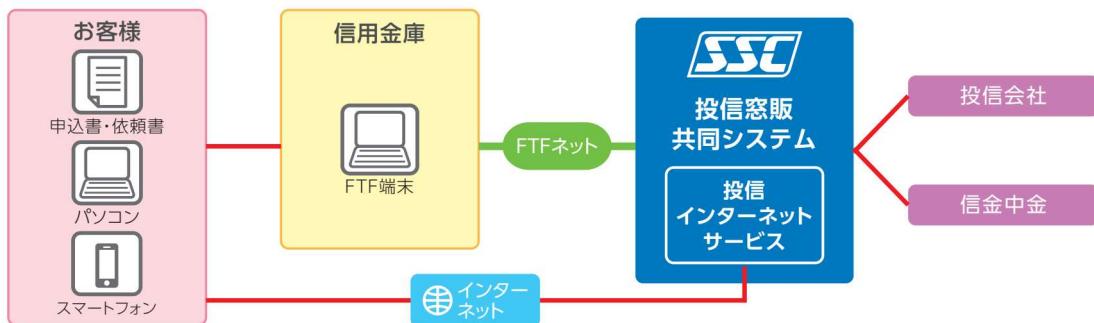
信用金庫とANSERセンターを接続し、信用金庫のお客様の取引情報(入出金明細や残高等)をお客様の各種端末機器(電話、ファックス、パソコン)に通知するサービスです。また、お客様による振込・振替等が行える資金移動サービスも提供しています。



## 投信窓販共同システム

### お取引先向けサービス

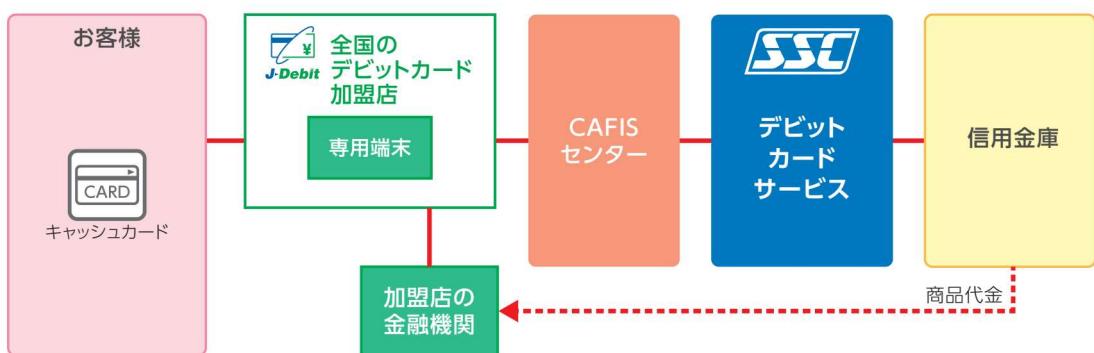
信用金庫のお客様が、信用金庫の窓口で投資信託の買付、売却等を行う際に、ファンドの情報管理をはじめ注文・約定管理、納税管理さらには法定帳票・各種報告書作成等を行うサービスです。また、お客様のパソコン・スマートフォンから直接取引を行うことができる、投信インターネットサービスも提供しています。



## デビットカードサービス

### お取引先向けサービス

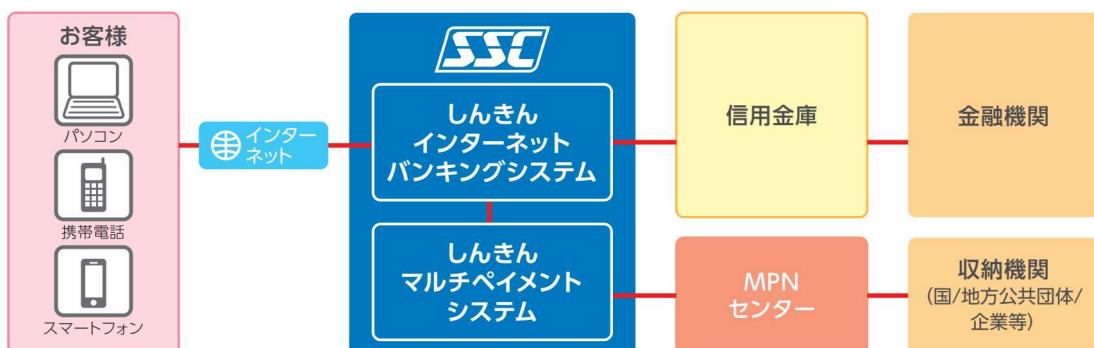
信用金庫のお客様が、全国のデビットカード（J-Debit）加盟店において、キャッシュカードを利用してキャッシュレスショッピングを行うことができるサービスです。



## しんきんインターネットバンキングシステム(個人・法人)

### お取引先向けサービス

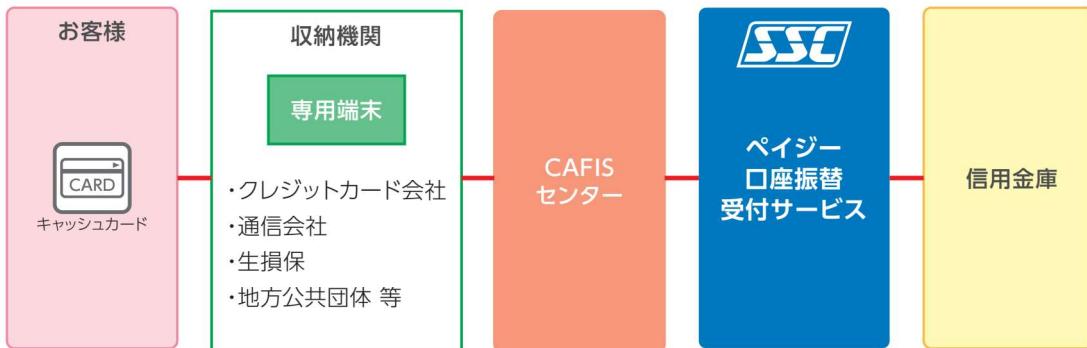
信用金庫のお客様（個人・法人・個人事業主）が、インターネットにより、預金口座の照会、振込等の取引を行うことができるサービスです。また、預金口座から税金や公共料金等を支払うMPN収納サービスも利用できます。



## ペイジー口座振替受付サービス

お取引先向けサービス

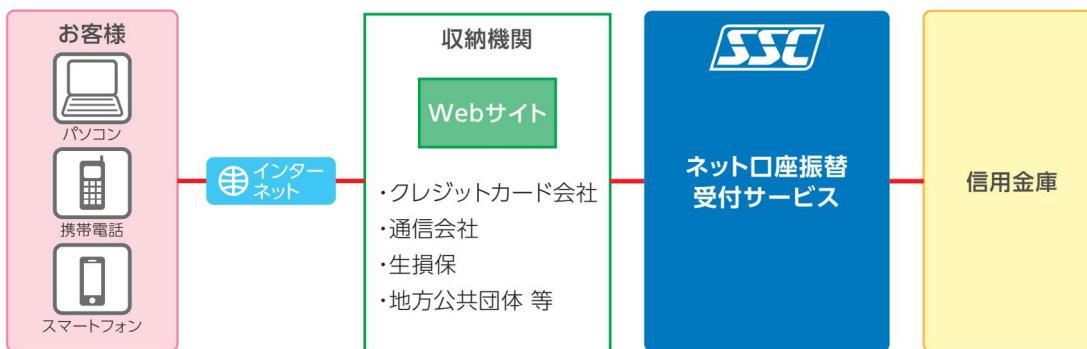
信用金庫のお客様が、キャッシュカードを利用してすることで、各種支払代金等の収納について取り扱うことをあらかじめ契約している収納機関と、その支払のための預金口座振替契約にかかる手続きを行うことができるサービスです。



## ネット口座振替受付サービス

お取引先向けサービス

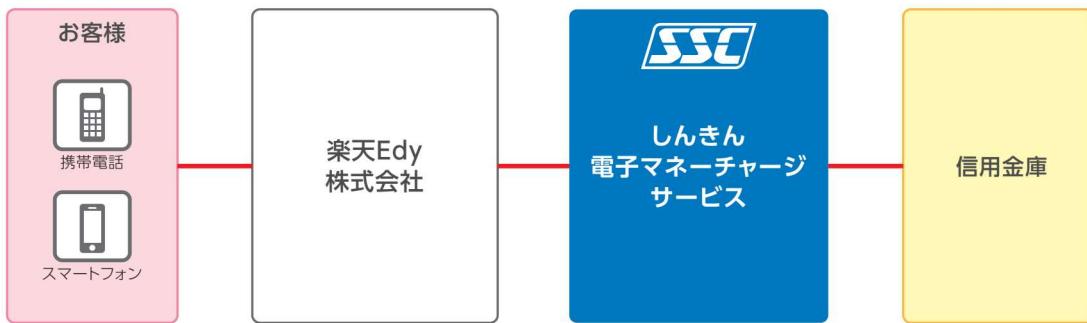
ペイジー口座振替受付サービスにおけるキャッシュカードの利用に代えて、お客様がインターネットを利用して預金口座振替契約を行うことができるサービスです。



## しんきん電子マネーチャージサービス

お取引先向けサービス

信用金庫のお客様が、お客様のスマートフォンや携帯電話に搭載された電子マネー「楽天Edy」に預金口座からチャージ(入金)することができるサービスです。これにより、信用金庫のお客様は、チャージした「楽天Edy」をEdy加盟店での買い物等に利用できます。



## しんきん電子記録債権システム

### お取引先向けサービス

信用金庫および信用金庫のお客様が行う電子記録債権<sup>(注1)</sup>にかかる各種取引を「でんさいネット」<sup>(注2)</sup>との間において中継するサービスです。これにより、信用金庫のお客様は、インターネットにより、電子債権の発生、譲渡および支払の記録請求等の取引を行うことができます。また、信用金庫がお客様の依頼にもとづき、代行して取引を行うこともできます。



(注1)電子記録債権とは、2008年12月1日に施行された「電子記録債権法」にもとづき、事業者が保有する手形や売掛債権を電子化し、インターネット等で取引できるようにした金銭債権。

(注2)でんさいネットとは、全国の都市銀行や地方銀行、信用金庫などの金融機関が参加している電子債権を記録するシステム。

## スマホ口座開設サービス

### お取引先向けサービス

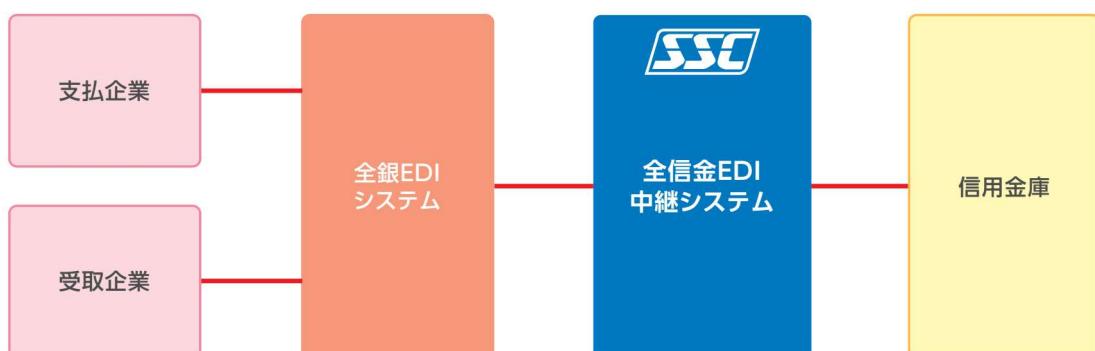
信用金庫のお客様が、お客様のスマートフォンからしんきん口座開設アプリを起動し、カメラ機能を利用した本人確認に必要な運転免許証（および印影）の撮影、またはeKYC本人確認サービスを利用したマイナンバーカードの読み取りによる本人確認を行い、預金口座開設に必要な情報を入力することにより、口座開設を行うことができるサービスです。



## 全信金EDI中継システム

### お取引先向けサービス

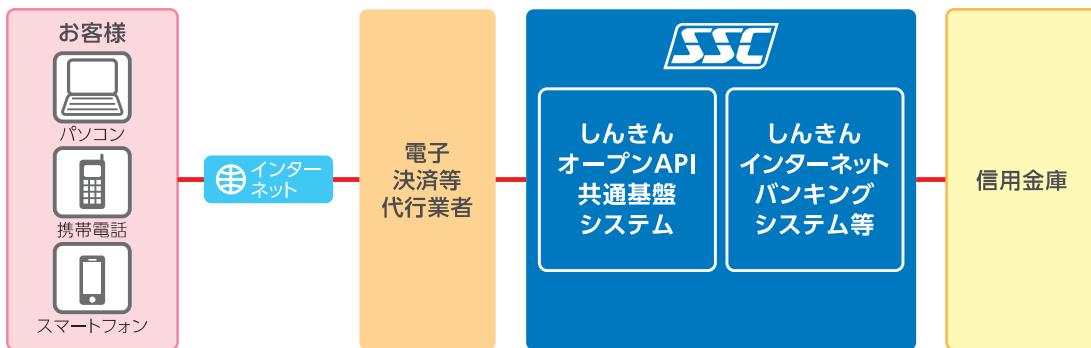
信用金庫と全銀EDIシステム間で、支払企業／受取企業が交換するさまざまな振込情報（支払通知番号、請求書番号等）をKey情報として中継するサービスです。



## しんきんオープンAPI共通基盤システム

お取引先向けサービス

お客様が利用する家計簿サービス等を提供する電子決済等代行業者と、信用金庫との間をオープンAPIにより接続することができるサービスです。



## しんきんバンキングアプリサービス

お取引先向けサービス

信用金庫のお客様が、お客様のスマートフォンからしんきんバンキングアプリ<sup>(注)</sup>を起動し、預金口座の残高や入出金明細の照会を行うことができるサービスです。また、通帳イメージで長期間の入出金明細を照会できるスマホ通帳も提供しています。なお、しんきんインターネットバンキングシステムの利用者だけでなく未利用者のお客様も利用できます。

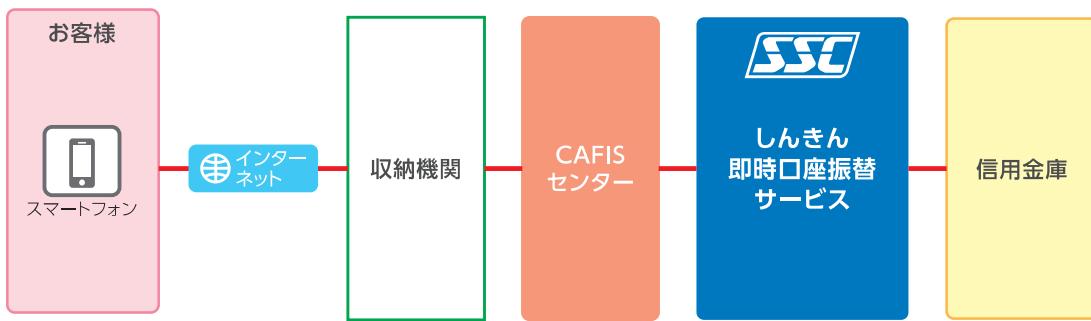


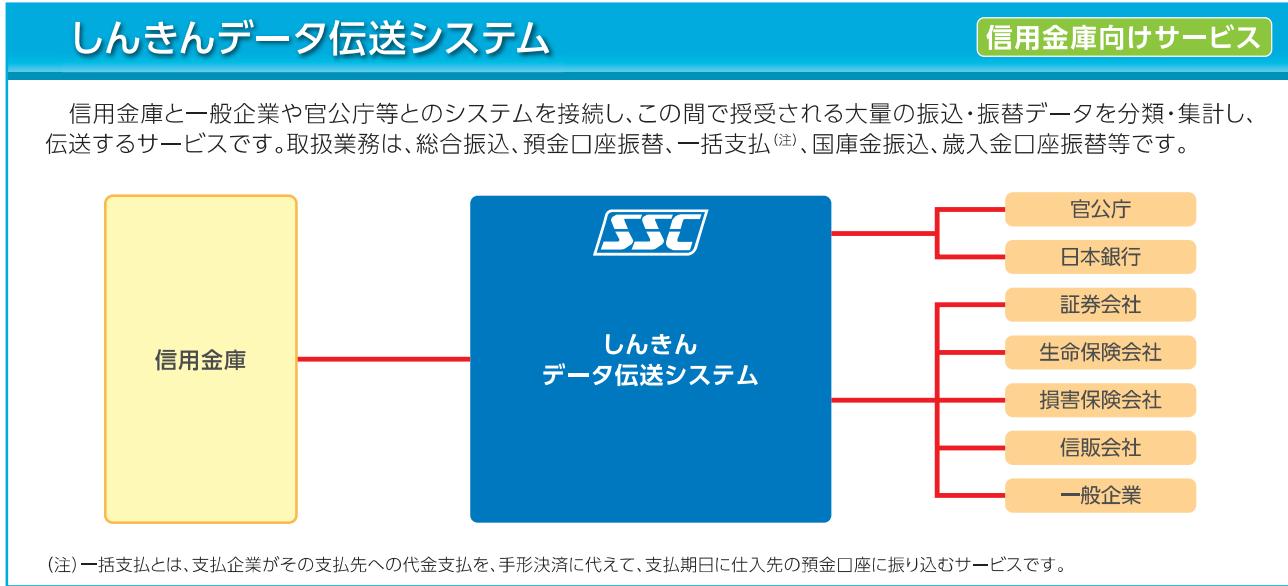
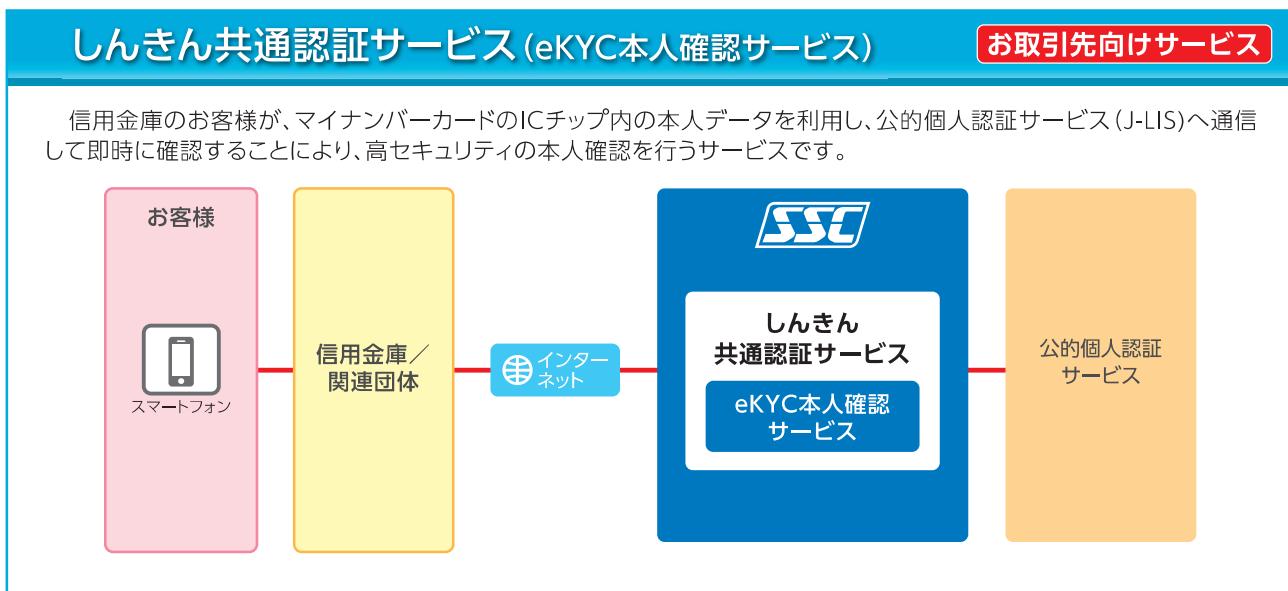
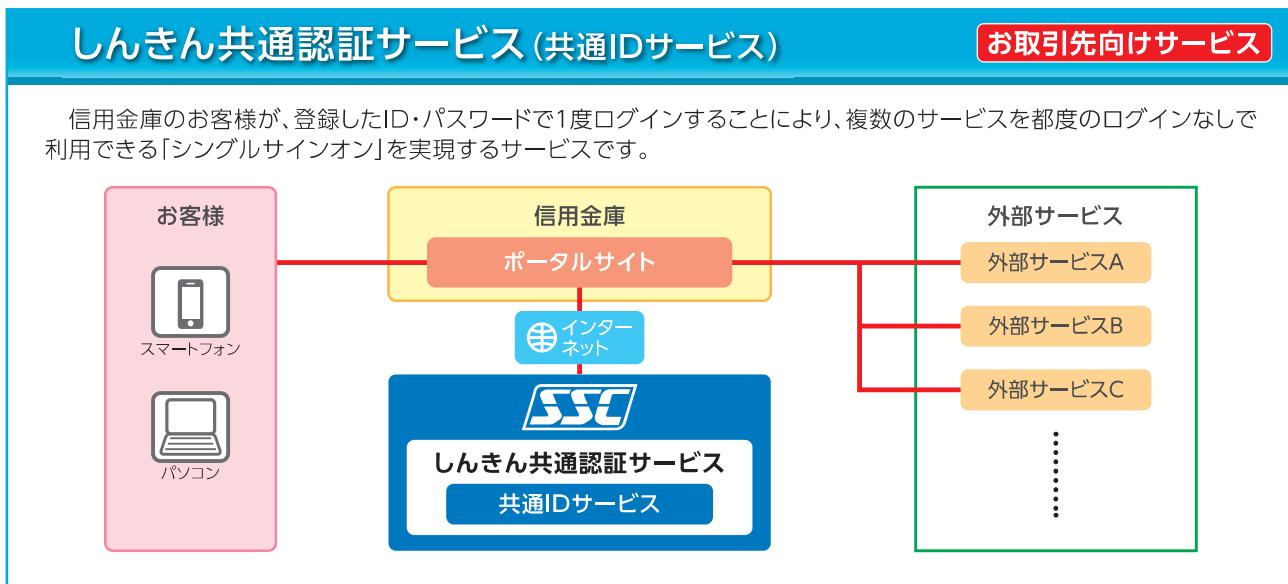
(注) アプリは「App Store」および「Google Play」に公開

## しんきん即時口座振替サービス

お取引先向けサービス

信用金庫のお客様が、お客様のスマートフォンから収納機関が提供するアプリを起動し、QRコード決済や電子マネーのチャージ等の各種サービスにおける即時の口座振替を行うことができるサービスです。





(注)一括支払とは、支払企業がその支払先への代金支払を、手形決済に代えて、支払期日に仕入先の預金口座に振り込むサービスです。

## しんきん個人信用情報システム

信用金庫向けサービス

信用金庫と全国銀行個人信用情報センター(以下「個信センター」と称します。)を接続し、個信センターが保有する個人信用情報を中継するサービスです。個信センターが提供する情報は、顧客の貸出情報、事故情報および照会記録情報であり、個信センターを通じてJICC<sup>(注1)</sup>とCIC<sup>(注2)</sup>が保有する情報の一部も中継しています。また、信用金庫が融資した個人信用情報も、しんきんデータ伝送システム等を利用して個信センターに中継しています。



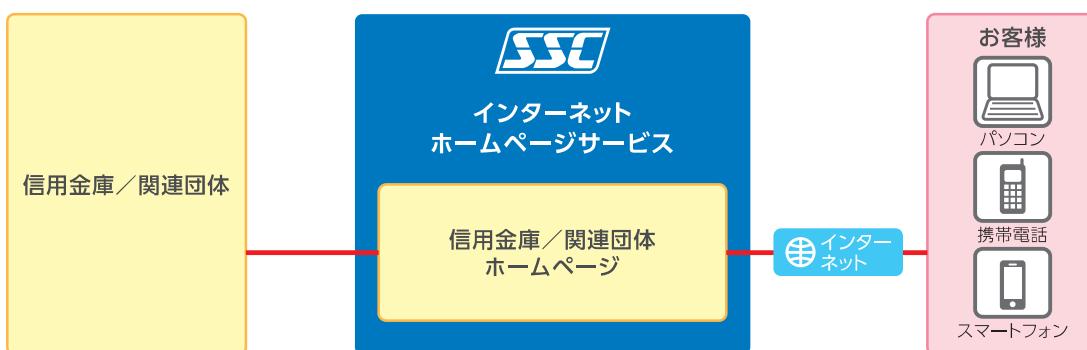
(注1) JICC((株)日本信用情報機構)とは、全業態横断型の信用情報機関。

(注2) CIC((株)シー・アイ・シー)とは、日本クレジット産業協会と全国信販協会が母体の信用情報機関。

## インターネットホームページサービス

信用金庫向けサービス

信用金庫および関連団体がお客様に向けて発信する様々な情報をホームページとして登録することで、お客様がインターネットを通して当該情報を閲覧できるサービスです。



## Face To Faceネット

信用金庫向けサービス

全国の信用金庫および関連団体がパソコンを用いて接続する業界内のネットワークサービスです。ネットワークの種類には、各種業務処理や業界内メール、業界内掲示板等のサービスを提供する業務ネットワーク、インターネットのWeb閲覧やメール送受信等のサービスを提供するインターネット接続サービスがあります。また、FTF業務ネットとFTFインターネット間で安全にデータ授受を行うデータ授受サービスがあります。



## FTFクラウド接続サービス

信用金庫向けサービス

インターネットを物理分離した金庫内システム等から外部のクラウドサービスの安全な利用を可能とするサービスです。



## JICC個人信用情報システム

信用金庫向けサービス

信用金庫とJICCを接続し、JICCが保有する個人信用情報を中継するサービスです。また、しんきん個人信用情報システムと同様、信用金庫が融資した個人信用情報も、JICCに中継しています。



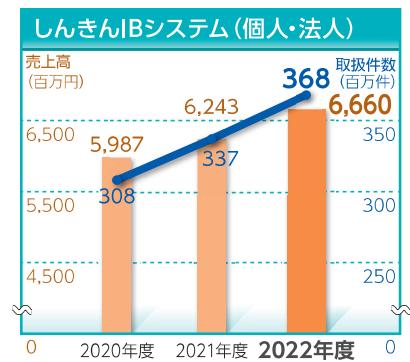
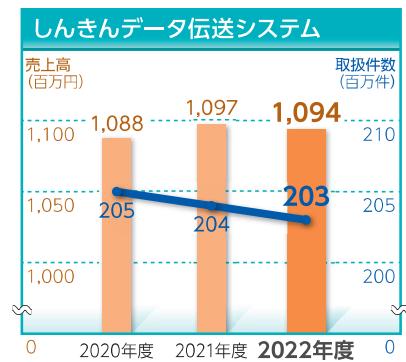
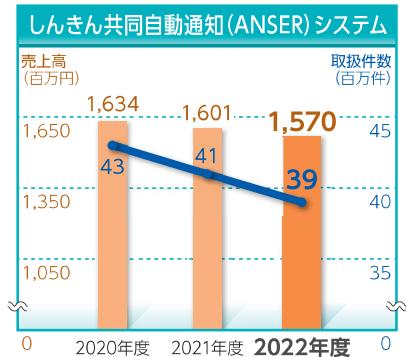
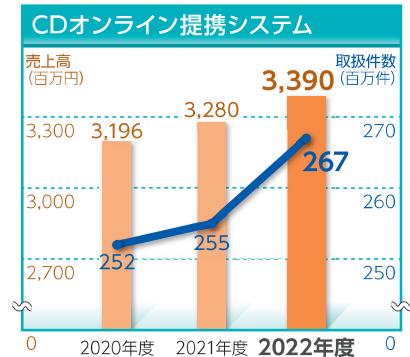
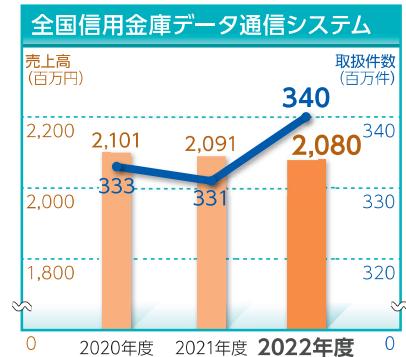
## しんきんIB不正取引検知サービス

信用金庫向けサービス

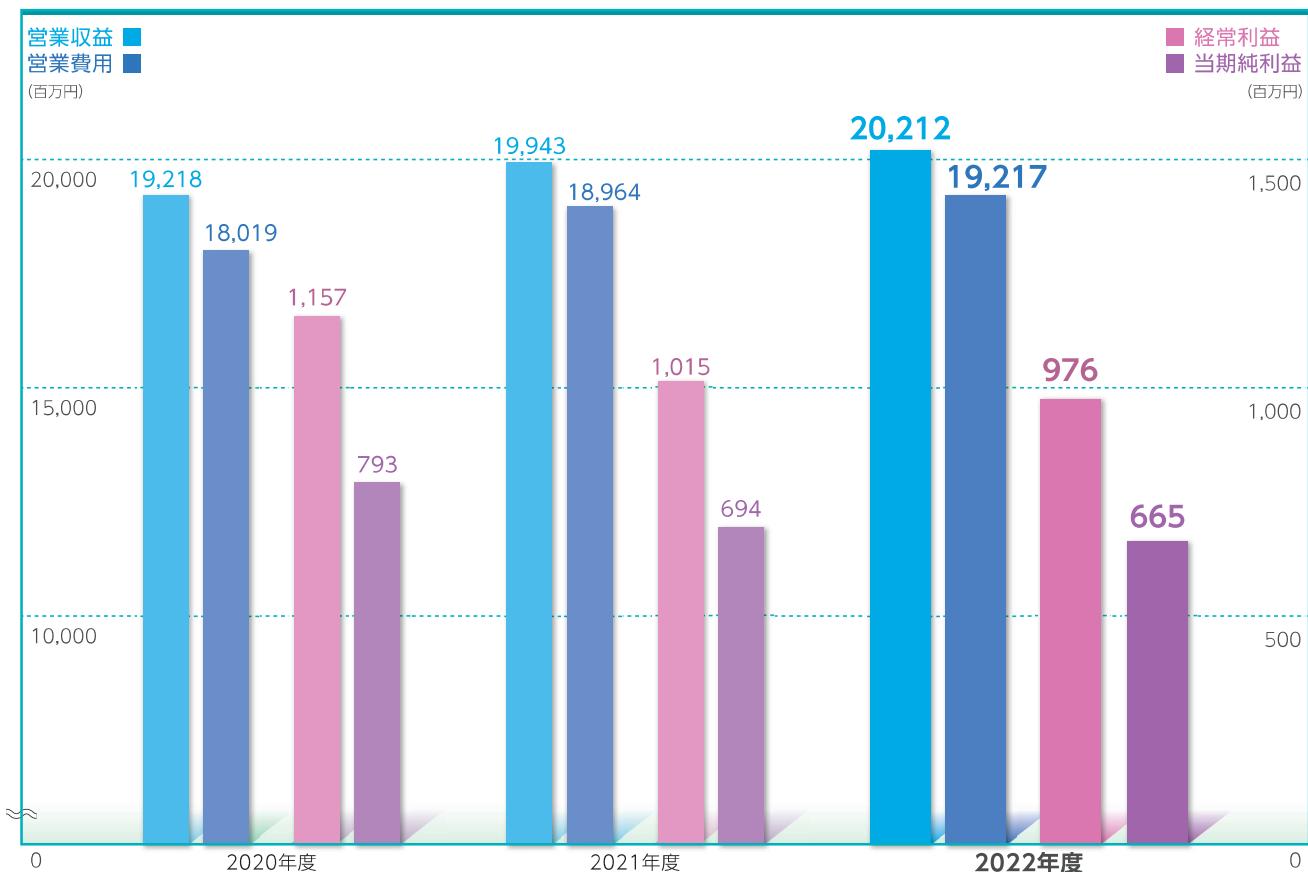
しんきんIBシステムの操作の中から、疑わしいアクセスや取引を検知し、調査を行い、不正の可能性が高いものについて信用金庫に連絡するサービスです。不正送金など緊急性が高いものについては、信用金庫からの事前の届出内容にもとづき、契約者のIDを停止して被害が拡大することを防ぎます。



# 主要システムサービスの売上高・取扱件数等



## 財務状況





第39回株主総会(2023年6月20日(火))



# 2022年度の主な取組み

2022年度は、新たな中期経営計画(2022年度～2024年度)の初年度として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策や経済活動の制限がある中、中期経営計画で掲げた5つの重点事項への取組みを中心に、各種システムの更改および制度変更等への適切な対応、新サービスの開発および既存サービスの機能追加、サイバーセキュリティ対策にかかる充実強化および信用金庫への各種支援ならびに提供システムの安全性・信頼性の向上に重点を置き、業界のネットワークセンターとして、信用金庫が地域金融機関の役割を十二分に發揮していくために必要なシステムサービスの提供に努めてまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、例年の理事長懇談会は開催の代替策として動画による情報配信を行い、SSC地区別業況報告会およびしんきん情報システム研究会については、感染状況に一定の沈静化が見られたことから、3年振りの会場開催としました。

## 【中期経営計画における重点事項】

- 1. ネットワークシステムの拡充
- 2. 共同開発・共同利用の推進
- 3. 効率的なシステムの構築と安定稼動
- 4. 働き甲斐のある職場環境の醸成
- 5. 経営基盤の強化

## 【2030年までに目指す姿】

SSCは、業界機械化体制の中核機関として、信金中金と連携したサステナブル経営の実現に取り組むとともに、業界内外との連携などにより、信用金庫・顧客が安心で利用しやすいシステムサービスを提供し、信用金庫が地域において最も信頼される金融機関となることを目指す。

## 【3つの戦略】

- 戦略Ⅰ. 信用金庫・顧客の課題を解決するシステムサービス機能の向上
- 戦略Ⅱ. 信用金庫のシステムリスク・サイバーセキュリティ対応力の強化
- 戦略Ⅲ. 有事発生に備えた持続的かつ効率的な業務運営態勢の構築

## 1. ネットワークシステムの拡充

### (1) スマホを活用したサービスの企画・開発

- 法人向けバンキングアプリの企画・開発
  - スマホを活用した新サービスの検討
- (2024年1月稼動予定)

### (2) しんきん共通認証サービスの構築・推進

- しんきん共通認証サービス基盤の構築
  - 共通IDサービスの開発・推進
  - eKYC本人確認サービスの開発・推進
- (2022年9月稼動)  
(2022年9月稼動)  
(2022年12月稼動)

### (3) 次世代FTFネットの企画・開発・推進

- FTFネット(インターネット接続サービス)の開発
  - FTFネット(クラウド接続サービス)の接続先の拡大および利用推進
  - FTFネット(業務ネットサービス)の検討
- (2023年3月稼動)

### (4) デジタル技術を活用した新サービス等の研究・開発

- パブリッククラウド(しんきん共通認証サービス基盤)を活用したサービスの検討
- マイクロサービス(オープンAPI共通基盤)を活用したサービスの検討

### (5) サイバーセキュリティ機能等の強化・拡充

- サイバーセキュリティセンターの運営
  - ・サイバーセキュリティ管理態勢強化の支援
  - ・セキュリティ人材育成の実施
  - ・各種相談・支援
  - ・eラーニング等を活用した信用金庫の課題等への支援
- システム別共通セキュリティ診断の実施
- FTF業務ネットワークとインターネット環境との分離にかかる推進
- セキュリティ強化(IVR、SMS認証、しんきんバンキングアプリへのOTP実装)
- ホームページ関連サービスのサイバーセキュリティ強化の検討

## 2. 共同開発・共同利用の推進

### (1) 業界関連組織等との連携・情報共有の推進

- しんきん共同センターとの「しんきんセンターシステム連携協議会」の実施
- 全信協・信金中金・しんきん共同センター・情報サービス会社との「連絡調整会議」の実施
- ベンダー等(日本ユニシス、ガートナー等)との最新技術動向・新サービス検討にかかる会議等の実施

### (2) 業界関連組織等との共同開発の推進

- しんきん共同センターの通帳レスアプリとしんきんバンキングアプリの連携にかかる検討
- 自営信用金庫のシステム更改にかかる各種対応の実施
- 信金中金との業界DX(データ利活用等)にかかる連携
- ネットワーク系サービスの共同開発・共同利用にかかる検討

### (3) サービスの利便性向上による共同利用の推進

- しんきん法人IBシステムにおける操作画面のリニューアル対応
  - しんきんIBヘルプデスク・サービスデスクにおける問い合わせ対応の強化
  - しんきんバンキングアプリにおける機能改善にかかる企画・開発
  - 投信窓口共同システムにおける信用金庫向け電子帳票のWEB還元システム構築にかかる検討
  - しんきん即時口座振替対応の利用促進対応
  - しんきんオープンAPI共通基盤システムを活用した外部接続先の拡大
  - しんきん電子記録債権システムにおけるヘルプデスクの導入および推進
- (2022年5月稼動)  
(2023年3月稼動)



### 3. 効率的なシステムの構築と安定稼動

#### (1) システム更改および制度対応等への計画的な取組み

- システム更改
  - ・しんきんオープンAPI共通基盤システムの更改にかかる開発 (2022年12月稼動)
  - ・しんきん法人IBシステムにおける電子証明書認証局システムの更改にかかる開発 (2023年1月稼動)
  - ・基幹系システム(オープンシステム)更改にかかる開発 (2023年1月稼動)
  - ・HPレンタルサービスの更改にかかる企画・開発 (2023年11月稼動予定)
  - ・しんきんIBシステムのハードウェア更改にかかる企画・開発 (2025年1月稼動予定)
  - ・基幹系システム(ネットワークシステム)の更改にかかる企画・開発 (2025年2月稼動予定)
  - ・次期基幹系システムの更改を踏まえた将来構想の検討
  - ・次期IBシステムの更改を踏まえた将来構想の検討
- 制度対応等
  - ・投信窓販共同システムにおける制度変更にかかる対応 (2023年1月稼動)
  - ・ISDN回線廃止に伴う代替サービス利用にかかる企画・開発 (2023年1月稼動)
  - ・地方税統一QRコードによる収納にかかる対応 (2023年4月稼動)
  - ・新たな送金・決済サービス(「ことら」および「Bank Pay」)にかかる対応 (2023年8月/9月稼動予定)
  - ・口座登録法および口座管理法にかかる対応 (2024年4月稼動予定)

#### (2) リスクベースアプローチ等によるシステムリスクの低減

- ・IBシステムにおける品質改善策の継続的な実効性の確認の実施
- ・内部監査人監査の実施
- ・監査法人によるシステム監査の実施
- ・情報セキュリティ管理基準書等にもとづくシステム点検・システムリスク評価(リスクアセスメント)の実施
- ・外部委託先の管理・監督の強化(実地調査、経済安全保障法規への対応等)
- ・業界合同障害対応訓練、重度障害発生時対応訓練およびシステム別障害対応訓練の継続実施
- ・プライバシーマークの更新にかかる対応

#### (3) オペレーション・レジリエンスの強化

- ・業務継続態勢の実効性向上にかかる各種訓練の実施
- ・自然災害の増加、新型コロナウィルス感染症の拡大等に対する適正かつ機動的な対策の実施
- ・BCP強化に向けたシステム運用体制の見直し
- ・投信窓販共同システムにおけるバックアップシステムの構築
- ・本社・厚木被災時における神戸センター対応業務の見直し・強化 (2023年10月稼動予定)

### 4. 働き甲斐のある職場環境の醸成

#### (1) 職場環境の継続的な整備

- ・過重労働防止策の実施
- ・仕事の省力化の推進(文書管理システムの導入等)
- ・神戸センターの体制強化に伴う執務環境等の見直し・整備

#### (2) 社員のスキル・ノウハウを活かした多様な活用の検討

- ・社内公募制度による開発プロジェクトの公募、参加制度の構築

#### (3) 社員や仕事の特性等に応じた勤務体系等の検討

- ・テレワークや時差出勤等の推進

#### (4) 各種ハラスマント防止への一層の取組み

- ・全役員・社員に対するハラスマントの意識付けにかかる勉強会・研修の実施
- ・メンタルヘルス対策にかかる検討・実施

### 5. 経営基盤の強化

#### (1) 信用金庫等業界のニーズの一層の取り込みのための体制・仕組みの拡充

- ・理事長懇談会、システム拡充委員会、地区別業況報告会およびしんきん情報システム研究会の開催
- ・投信窓販共同システム等を対象とした意見交換会等の実施
- ・eラーニング等を活用した効率的、効果的な情報提供とニーズ把握の実施

#### (2) 新技術やサイバーセキュリティ等にかかるスキル・ノウハウを有する人材の育成・確保

- ・信用金庫への出向および人材受入れの検討・実施
- ・社内向けサイバーセキュリティ研修および新技術にかかる勉強会の実施
- ・eラーニング等を活用したデジタル人材の育成

#### (3) 効率的・効果的業務運営を可能とする組織体制の整備・変更

- ・新型コロナウィルス感染症の拡大に応じた業務体制の見直し
- ・各部門の共通業務等の集約による業務効率化の検討

#### (4) コンプライアンス・ガバナンス機能の整備による経営管理態勢の強化

- ・ガバナンス強化を目的とした組織改正の実施
- ・コンプライアンス・プログラムの策定・管理

#### (5) 財務管理の強化

- ・安定的な収益確保のための計画的なシステム投資計画の管理
- ・財務会計・管理会計システムを活用した効率化の推進

#### (6) ペーパーレス・事務効率化の推進

- ・社内システム改善や文書管理の見直しによるペーパーレス化の推進
- ・電子帳簿保存法およびインボイス制度への対応
- ・信用金庫からの各種届出等の電子化にかかる企画・開発

#### (7) 気候変動への取組み

- ・クリーン電力の導入検討
- ・システム機器の省力化検討

# 2023年度事業計画 事業施策

2023年度事業計画は、中期経営計画の中間年度として、同計画に掲げた5つの重点事項に対し、2022年度の事業計画の遂行状況を踏まえ、今年度実施すべき施策を以下とおり策定し、その達成に向けて取り組んでいくこととします。

なお、特に今年度は、当社の最重要システムである基幹系システムの更改にかかる企画・開発、しんきんIBシステムにかかる次期システムの企画・開発および当社システムサービス全体のBCPの実効性向上の3点について、重点的に取り組むこととします。

また、当社の重要な役割であるシステムの安全性・信頼性の確保におけるシステム障害・事故の防止に向けた対応や信用金庫のサイバーセキュリティ管理態勢強化の支援等にも引き続き取り組んでまいります。

## 【中期経営計画における重点事項】

- 1. ネットワークシステムの拡充
- 2. 共同開発・共同利用の推進
- 3. 効率的なシステムの構築と安定稼動
- 4. 働き甲斐のある職場環境の醸成
- 5. 経営基盤の強化

## 【2030年までに目指す姿】

SSCは、業界機械化体制の中枢機関として、信金中金と連携したサステナブル経営の実現に取り組むとともに、業界内外との連携などにより、信用金庫・顧客が安心で利用しやすいシステムサービスを提供し、信用金庫が地域において最も信頼される金融機関となることを目指す。

## 【3つの戦略】

- 戦略Ⅰ. 信用金庫・顧客の課題を解決するシステムサービス機能の向上
- 戦略Ⅱ. 信用金庫のシステムリスク・サイバーセキュリティ対応力の強化
- 戦略Ⅲ. 有事発生に備えた持続的かつ効率的な業務運営態勢の構築

## 1. ネットワークシステムの拡充

### (1) スマホを活用したサービスの企画・開発

- 法人向けバンキングアプリの残高照会・入出金明細照会等の参照系機能(STEP1)
- 法人向けバンキングアプリの都度振込等の更新系機能、その他機能(STEP2)
- しんきんバンキングアプリにおけることら送金機能の提供
- スマホアプリにおけるオンラインでの申込受付の検討(投信口座、NISA口座開設等)

(2024年1月稼動予定)  
(2024年度以降稼動予定)

### (2) しんきん共通認証サービスの構築・推進

- しんきん共通認証サービスの追加機能の企画・開発
- しんきん共通認証サービスの利用推進

### (3) 次世代FTFネットの企画・開発・推進

- FTFネット(インターネット接続サービス)の開発
- FTFネット(クラウド接続サービス)の接続先の拡大および利用推進
- FTFネット(業務ネットサービス)の企画

(2023年3月より順次移行)  
(2024年度下期稼動予定)

### (4) デジタル技術を活用した新サービス等の研究・開発

- パブリッククラウドを活用したサービスの検討
- マイクロサービス(オープンAPI共通基盤)を活用したサービスの検討
- しんきんオープンAPI共通基盤システムにおける更新系APIの検討

### (5) サイバーセキュリティ機能等の強化・拡充

- サイバーセキュリティセンターの運営
- システム別共通セキュリティ診断の実施
- セキュリティ強化(IVR、SMS認証、しんきんバンキングアプリへのOTP実装)
- ホームページ関連サービスのサイバーセキュリティ強化の実施

## 2. 共同開発・共同利用の推進

### (1) 業界関連組織等との連携・情報共有の推進

- しんきん共同センターとの「しんきんセンターシステム連携協議会」の実施
- 全信協・信金中金・しんきん共同センター・情報サービス会社との「連絡調整会議」の実施
- ベンダー等(NTTデータ、BIPROGY等)との最新技術動向・新サービス検討にかかる会議等の実施

### (2) 業界関連組織等との共同開発の推進

- しんきん共同センターの通帳レスアプリとしんきんバンキングアプリの連携にかかる企画
- 自営信用金庫のシステム更改にかかる各種対応の実施
- 信金中金との業界DX(データ利活用等)にかかる連携
- ネットワーク系サービスの共同開発・共同利用にかかる検討
- 信用金庫業界アプリへの振込機能にかかる企画

### (3) サービスの利便性向上による共同利用の推進

- しんきんIBシステムにおける機能改善にかかる企画・開発
- しんきんIBヘルプデスク・サービスデスクにおける問い合わせ対応の強化
- しんきんバンキングアプリにおける機能改善にかかる企画・開発
- しんきん即時口座振替対応(PayPay追加等)の利用促進対応
- しんきんオープンAPI共通基盤システムを活用した外部接続先の拡大
- 投信窓口システムおよびしんきん電子記録債権システムにおけるヘルプデスク・サービスデスクの拡充
- 投信インターネットサービスの機能拡充の検討(投信アプリ含む)
- スマホ口座開設サービスのマイナンバー方式における印影取得の検討

### 3. 効率的なシステムの構築と安定稼動

#### (1) システム更改および制度対応等への計画的な取組み

- システム更改
  - ・HPレンタルサービスの更改にかかる開発
  - ・基幹系システム（ネットワークシステム）の更改にかかる企画・開発
  - ・EnConneサーバ更改にかかる企画・開発
  - ・しんきんIBシステムのハードウェア更改にかかる企画・開発
  - ・次期基幹系システムの更改を踏まえた将来構想の検討
  - ・次期IBシステムの更改を踏まえた将来構想の検討
- 制度対応
  - ・ISDN回線廃止に伴う代替サービス利用にかかる開発
  - ・地方税統一QRコードによる収納にかかる開発
  - ・ことら中継サービスおよびBank Pay中継サービスにかかる開発
  - ・インボイス制度にかかる企画・開発
  - ・投信窓販共同システムにおける制度変更にかかる企画・開発
  - ・口座登録法および口座管理法にかかる企画・開発

(2023年11月稼動予定)  
 (2024年度稼動予定)  
 (2024年6月/2025年7月稼動予定)  
 (2025年1月稼動予定)  
 (2026年度稼動予定)  
 (2028年度1月稼動予定)

(2023年1月より順次稼動)  
 (2023年4月稼動)  
 (2023年8月/9月稼動予定)  
 (2023年10月稼動予定)  
 (2024年1月稼動予定)  
 (2024年4月稼動予定)

#### (2) リスクベースアプローチ等によるシステムリスクの低減

- ・IBシステムにおける品質改善策の継続的な実効性の確認の実施
- ・内部監査人監査の実施
- ・監査法人によるシステム監査の実施
- ・情報セキュリティ管理基準書等にもとづくシステム点検・システムリスク評価（リスクアセスメント）の実施
- ・外部委託先の管理・監督の強化（実地調査、経済安全保障法制への対応等）
- ・業界合同障害対応訓練、重度障害発生時対応訓練およびシステム別障害対応訓練の継続実施

#### (3) オペレーション・レジリエンスの強化

- ・業務継続態勢の実効性向上にかかる各種訓練の実施
- ・自然災害の増加、新型コロナウイルス感染症の拡大等に対する適正かつ機動的な対策の実施
- ・BCPの実効性向上にかかる全社的な対応の実施
- ・しんきん個人信用情報システムにおけるバックアップシステムの構築
- ・投信窓販共同システムにおけるバックアップシステムの構築

(2023年10月稼動予定)

### 4. 働き甲斐のある職場環境の醸成

#### (1) 職場環境の継続的な整備

- ・過重労働防止策の実施
- ・電子文書の整備に向けた検討・実施

#### (2) 社員のスキル・ノウハウを活かした多様な活用の検討

- ・社内公募制度による開発プロジェクトの公募、参加制度の構築
- ・スキルアップのための教育研修の実施

#### (3) 社員や仕事の特性等に応じた勤務体系等の検討

- ・法制度に基づく対応の検討・実施・推進

#### (4) 各種ハラスメント防止への一層の取組み

- ・全役員・社員に対するハラスメントの意識付けにかかる勉強会・研修の実施
- ・メンタルヘルス対策にかかる検討・実施

### 5. 経営基盤の強化

#### (1) 信用金庫等業界のニーズの一層の取り込みのための体制・仕組みの拡充

- ・理事長懇談会、システム拡充委員会、地区別業況報告会およびしんきん情報システム研究会の開催
- ・投信窓販共同システム等を対象とした意見交換会等の実施
- ・eラーニング等を活用した効率的、効果的な情報提供とニーズ把握の実施

#### (2) 新技術やサイバーセキュリティ等にかかるスキル・ノウハウを有する人材の育成・確保

- ・信用金庫への出向および人材受入れの実施
- ・社内向けサイバーセキュリティ研修および新技術にかかる勉強会の実施
- ・eラーニング等を活用したデジタル人材の育成

#### (3) 効率的・効果的業務運営を可能とする組織体制の整備・変更

- ・事務リスク管理の強化および業務の効率化を目的とした組織改正の実施
- ・事務事故の削減にかかる対応

(2023年4月実施)

#### (4) コンプライアンス・ガバナンス機能の整備による経営管理態勢の強化

- ・ガバナンス強化を目的とした組織改正の実施
- ・コンプライアンス・プログラムの策定・管理

#### (5) 財務管理の強化

- ・安定的な収益確保のための計画的なシステム投資計画の管理
- ・予算・収支管理の強化
- ・財務会計・管理会計システムを活用した効率化の推進

#### (6) ペーパーレス・事務効率化の推進

- ・電子裏議システム機能改善対応の実施
- ・電子帳簿保存法およびインボイス制度への対応
- ・信用金庫からの各種届出等の電子化にかかる対応

#### (7) 気候変動への取組み

- ・クリーン電力の導入検討
- ・システム機器の省力化検討

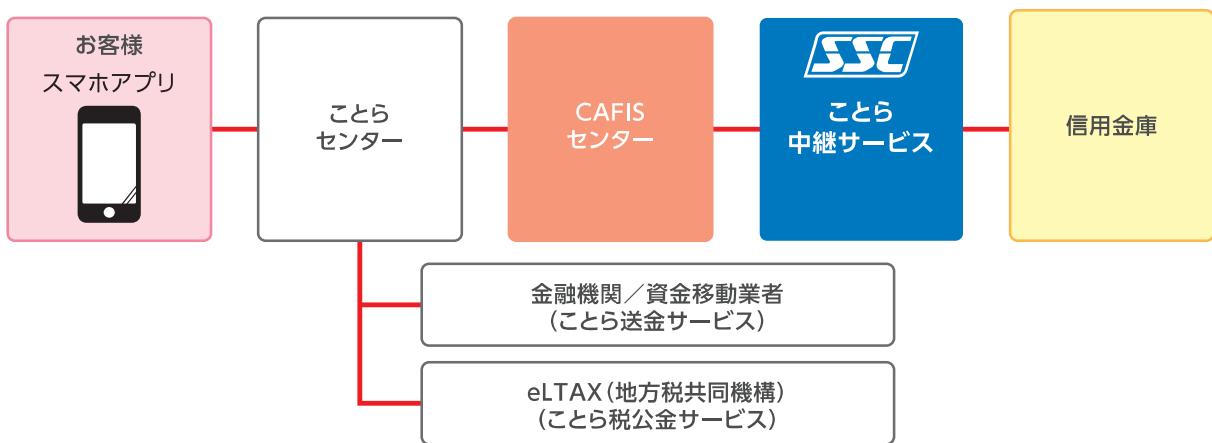
# ことら中継サービスの提供

## 1 サービス概要

「ことら」はキャッシュレス決済の普及による小口決済の増加に対して誕生した、株式会社ことらより提供されているサービスです。「ことら」の利用者は、携帯電話番号等を用いた個人間の簡便な送金をすることができます。

現在、当社では「ことら送金サービス」の取引を中継するサービスについて、2023年8月の提供を予定しており、信用金庫のお客様は本サービスにより、スマホアプリを用いて小口決済サービス「ことら」の利用が可能となります。また、今後、当社では、スマホアプリでQRコードを読み取ることで、税・公金納付ができるサービス「ことら税公金サービス」への対応も予定しております。

## 2 イメージ図



# Bank Pay中継サービスの提供

## 1 サービス概要

「Bank Pay」は、J-Debitを運営する日本電子決済推進機構(JEPO)が提供している、スマホ決済サービスアプリです。近年、主要なキャッシュレス決済手段となっているQRコード決済サービスの他、Bank Payと提携した企業が提供する専用のスマホアプリでの支払いやチャージに対応しています。

現在、当社では「Bank Pay」の取引を中継するサービスについて、2023年9月の提供を予定しており、信用金庫のお客様は本サービスにより「Bank Pay」の決済サービスが利用可能となります。

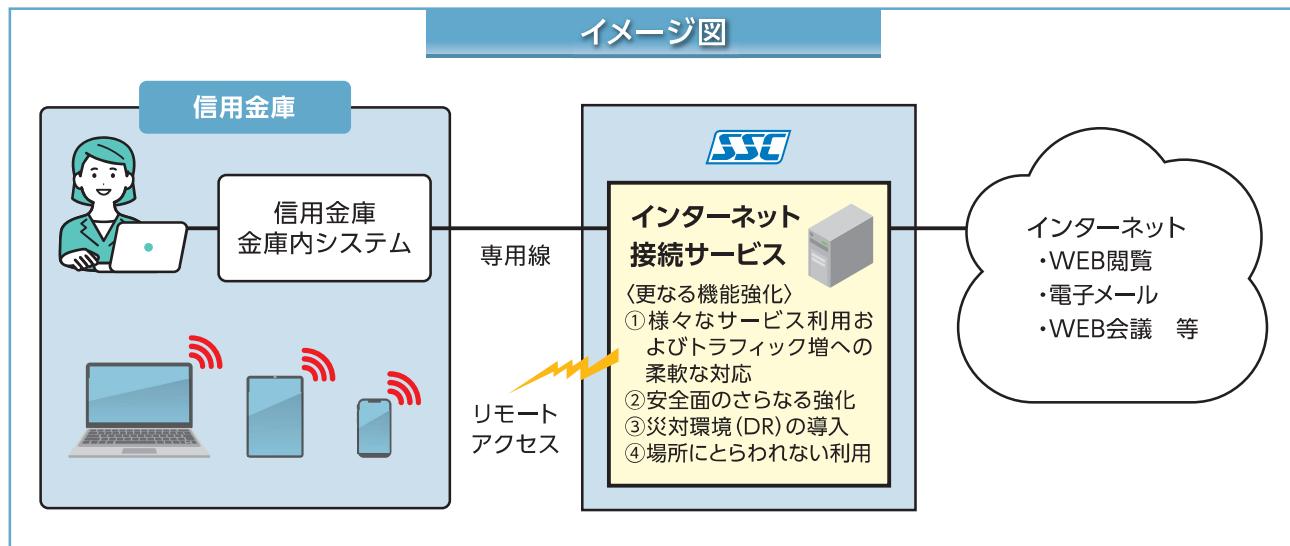
## 2 イメージ図



# FaceToFaceネット(インターネット接続サービス)の 更改に併せた機能強化

信用金庫に安全性を高めたインターネット利用環境を提供するFaceToFaceネット(インターネット接続サービス)は、2023年3月のシステム更改に併せて、更なる機能強化を行った新たなサービスを開始いたしました。

信用金庫は、本サービスにより、更に安全・安心なインターネット利用が可能となります。



No.	強化施策	概要	説明
①	様々なサービス利用およびトラフィック増への柔軟な対応	FTFインターネットを通じた様々なサービス利用	利用先サービス毎の様々な通信プロトコルにも対応可能となります。
		FTFインターネットに接続する専用回線品目の充実	利用者の環境(回線帯域等)に合わせた専用回線品目の選択が可能となります。
②	安全面のさらなる強化	機械学習(AI)を活用した振る舞い検知	最先端のAIを導入することにより、未知のマルウェア等への脅威に対応することが可能となります。
		電子メールのセキュリティ強化	電子メールを利用した攻撃に対する安全対策(経路の暗号化、標的型攻撃メールへの対策等)が強化されます。
		利用者端末(エンドポイント)へのセキュリティを実現	利用者端末のセキュリティ強化を行う機能(マルウェア対策、SOCによる監視等)が導入可能となります。
③	災対環境(DR)の導入	災害環境の導入によるオペレーションナルレジリエンスの向上	FTFインターネット基盤を、東日本(メイン)および西日本(DR)に設置することで自然災害またはサイバー攻撃が生じた際でもサービス継続が可能となります。
④	場所にとらわれない利用	外出先からのFTFインターネット利用	無線通信によるFTFインターネットへの接続を可能とし、外出先からの安全なインターネット利用が可能となります。

# コーポレート・ガバナンスの状況

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題として認識しており、適切かつ迅速な経営の意思決定を図り、より効率性・透明性の高い経営を実現するため、牽制機能の強化に努めています。

当社は監査役会および会計監査人設置会社であり、会社の機関として会社法に定められる株主総会、取締役会および監査役会を設置しています。そのほかに常勤取締役会を設置し、業務執行における意思決定の迅速化に努めています。

## 取締役会

取締役および監査役をもって構成され、原則年7回の開催と必要に応じた臨時開催により、法令で定められた事項や経営に関する重要な事項等の意思決定および監督を行っています。なお、取締役には、株主であり取引先である信用金庫の代表者が加わり、当社の経営に参加しています。

## 監査役会

社外監査役2名を含む3名で構成され、原則年4回の開催により、監査の方針・計画・方法その他監査に関する重要な事項についての意思決定を行っています。

## 常勤取締役会

常勤の取締役をもって構成され、原則週1回の開催により、事業運営に関する円滑かつ迅速な意思決定を行っています。

# 業務遂行とチェック体制

## 業務遂行

当社は、自己責任にもとづく健全で効率的な業務運営を通じて、社会から揺るぎない信頼を確保するために、法令等遵守を含む役員・社員の行動指針として「SSCの倫理綱領」を制定し、企業倫理の確立による健全な事業活動に向け取り組んでいます。

また、業務運営を適正かつ効率的に遂行するために、「内部統制基本方針」を定め、その運用状況を確認するとともに、会社業務の意思決定および業務実施に関する各種社内規定を定める等により、職務権限の明確化と適切な牽制が機能する体制を整備しています。

## チェック体制

内部監査機能として、監査部を設置し、業務執行から独立した立場で各部門等の業務運営が法令、社内規定ならびに会社の経営方針、業務分掌および事業計画等に沿って行われているかを検証し、各部門等に具体的な助言・勧告等を行うことにより、会社の健全性の保持および経営目的の効率的な達成に努めています。

監査役は、取締役会等重要な会議への出席、重要な決議書類や業務監査報告等の閲覧を通じて、業務執行状況の監視・監査を適宜行うとともに、監査役会等において監査法人と協議を実施し、相互連携の充実に努めています。

# コンプライアンスへの取組み

当社は、信用金庫業界のシステム中枢センターとして、社会的責任を十分認識し、社会から揺るぎない信頼を確保しなければならないと認識しています。

このため、当社では「SSCの倫理綱領」を遵守するほか、次のような諸施策を実施し、役員・社員が一丸となってコンプライアンス態勢の強化に取り組んでいます。

## コンプライアンス体制

コンプライアンス統括部門および関連部門を定め、それぞれの役割を明確にするとともに、コンプライアンス統括責任者および担当者を配置し、社内におけるコンプライアンスの実施状況の把握や点検ができる体制を整備しています。また、コンプライアンス上の違反行為に対しては、コンプライアンス・ホットライン制度を設け、社内通報窓口および外部通報窓口を利用できる体制を整備しています。

## コンプライアンス・プログラム

コンプライアンスの具体的な実践計画として、「コンプライアンス・プログラム」を年度ごとに策定し、定期的に実施状況を確認しています。

## コンプライアンス・マニュアル

役員・社員が遵守すべき法令等の解説、違法行為を発見した場合の対処方法等を具体的に示した手引書として「コンプライアンス・マニュアル」を策定しています。

## 反社会的勢力との関係遮断

反社会的勢力による被害を防止するための情報収集および情報の一元的な管理態勢や対応マニュアルを整備しています。また、各拠点に不当要求防止責任者を設置するとともに、反社会的勢力への対応にかかる教育を実施しています。

# 個人情報保護への取組み

当社は、信用金庫から大量のデータを預かる立場にあり、情報の適正管理は、当社の信頼を確保するうえでの重要なテーマであります。

とりわけ、個人情報の保護は、社会から要請される重大な責務であると強く認識しています。当社では、このような要請にこたえるため、2006年10月にプライバシーマークを取得し、個人情報保護マネジメントシステムを実施することにより強固な個人情報保護にかかる管理体制を構築しています。

また、社内規定の定期的見直しや社員教育の徹底、各種安全管理措置の充実および外部委託先の監督の強化等に取り組んでいます。



取得認定日:2006年10月24日  
更新認定日:2022年12月21日  
認定番号:第10821875号  
有効期間:2022年11月8日～2024年11月7日

プライバシーマーク制度とは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)が、日本産業規格「JIS Q 15001個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合して、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定して、その旨を示すプライバシーマークを付与し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。

# リスク管理への取組み

当社が提供する全国信用金庫データ通信システムやCDオンライン提携システムなどの金融ネットワークシステムは、社会的なインフラ機能であり、持続的かつ安定的にサービスを提供していくためには、様々なリスクを把握し、適切に管理のうえ対処していくことが必要です。当社では、次のような体制のもと、リスク管理の充実・強化に取り組んでいます。

## リスク管理の基本方針

リスク管理の最上位規定として「リスク管理の基本方針」を策定し、当社におけるリスクの種類を次のとおり分類のうえ、これらのリスクを適切に管理するために必要な対策を実施するよう努めています。

### リスク管理の体系

#### リスク管理の基本方針

#### 当社におけるリスク

##### システムリスク

##### 事務リスク

##### 災害リスク

##### その他のリスク

### システムリスク

当社が提供・運営する金融ネットワークシステムに関して、システムリスク低減のための対策として、次のような体制を構築しています。

- (1) システムリスク統括責任者およびシステムリスク統括管理部門を定め、全体の施策を指揮・統括しています。  
また、各部門において、システムリスク管理にかかる部門責任者および管理者を任命し、各種のシステムリスク管理業務を実施しています。
- (2) 情報システムの安全性・信頼性を確保し、システムリスクの発生防止を図るため、情報システムにかかるセキュリティ管理基準を定め、毎年この基準にもとづき、各部門が遵守状況を点検しています。
- (3) 点検結果については、システムリスク統括管理部門が分析・評価のうえ、改善計画を立案し、各部門に対策を指示しています。また、これらの結果や社会情勢等を踏まえて、管理体制や施策等の見直しを実施しています。

### 災害リスク

災害等が発生した場合に備え、当社が提供・運営する金融ネットワークシステムに対し安全対策を講じるとともに、施設・社員などの当社経営資源が影響を受けた場合においても、可能な限り業務を継続・復旧できる体制の整備に取り組んでいます。

大規模な地震による災害や新型インフルエンザ等による不測の事態においても必要な業務を継続するための業務継続計画を整備し、緊急時の連絡体制や緊急対策本部の設置等の対策を構築するとともに、環境の変化等への定期的な検証・見直しにより、その実効性の維持・向上に努めています。

これらの取組みや体制に関しては、定期的に役員・社員向けの研修や担当部門における訓練を実施するなど、教育の充実を図っています。

### 事務リスク

各種規定を整備のうえ、事務処理手順や権限等の明確化と事務の標準化を推進し、事務ミスの防止に努めています。

また、各部門における自主検査および内部監査の定期的な実施により、ルールの遵守状況をチェックし、適切な指導を行うことで、事務処理の改善と事故・不正の防止を図っています。

### その他のリスク

役員・社員の安全・衛生にかかるリスク、反社会的勢力への対応にかかるリスク等をその他のリスクとして整理しています。

これらについてもそのリスクごとに必要な規定・マニュアル等を整備のうえ、対策を講じるとともに、社員教育の実施により対応力の強化を図っています。

# 業務継続体制の整備

当社は、大規模災害や事故などが発生した場合でも、決済機能にかかる金融ネットワークシステムを継続的に提供できるよう業務継続体制の充実・強化に取り組んでいます。

## 業務継続計画の策定

リスク管理の基本方針のもと、管理体制や重要業務などの前提条件を定めた業務継続管理規程および業務継続管理細則をはじめ、被災シナリオごとの具体的な対応を定めた各種の業務継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を整備しています。

### 業務継続計画の体系

#### リスク管理の基本方針

#### 災害リスク

#### 業務継続管理規程 業務継続管理細則

業務継続計画  
(新型インフルエンザ等編)

業務継続計画  
(首都直下地震編)

業務継続計画  
(厚木地震編)

業務継続計画  
(神戸地震編)

業務継続計画  
(富士山噴火編)

## コンティンジエンシープランの整備

危機発生時における具体的な連絡体制や復旧手順等を定めたコンティンジエンシープラン(Contingency Plan)をシステムごとに整備し、万が一、システム障害が発生した場合に、障害の影響を極小化し、迅速な復旧を図ることとしています。

## オフサイトバックアップ体制

厚木センターと神戸センターの2拠点での運用体制のもと、全国信用金庫データ通信システム、CDオンライン提携システム、しんきんデータ伝送システムおよびしんきんインターネットバンキングシステムについては、災害発生等により一方の拠点が使用不能となった場合でも、早期にバックアップ体制に切り替えて業務継続が可能となるようにしています。

### バックアップの運用形態



システム名	厚木センター	神戸センター
全国信用金庫データ通信システム	本番稼動(両現用)	
CDオンライン提携システム	バックアップ	本番稼動
しんきんデータ伝送システム	本番稼動	バックアップ
しんきんインターネットバンキングシステム	バックアップ	本番稼動

※上記システムの関連システムであるFTF業務ネットワーク、インターネットホームページサービスについても、バックアップ体制を整備しています。

## 業務継続訓練・教育の実施

危機発生時の対応手順の確認・習熟のため、各種の訓練を定期的に実施することにより、業務継続計画やコンティンジエンシープランの実効性の向上を図っています。また、毎年、全社員研修を実施し、業務継続計画の重要性や緊急時ににおける行動指針について周知徹底を図っています。

# 資料編

## 財務データ

損益計算書	27
貸借対照表	28
重要な会計方針に係る事項に関する注記(第39期)	30

## 統計データ

主要システムサービスの取扱件数等・利用金庫数の推移	31
---------------------------	----

## コーポレートデータ

株主信用金庫一覧	34
組織図／常勤役員・社員数／役員	36
沿革	37



# 損益計算書

(単位:百万円)

科目	第37期 (2020.4.1~2021.3.31)	第38期 (2021.4.1~2022.3.31)	第39期 (2022.4.1~2023.3.31)
<b>営業収益</b>	<b>19,218</b>	<b>19,943</b>	<b>20,212</b>
売上高	19,218	19,943	20,212
<b>営業費用</b>	<b>18,019</b>	<b>18,964</b>	<b>19,217</b>
売上原価及び一般管理費	18,019	18,964	19,217
<b>営業利益</b>	<b>1,199</b>	<b>978</b>	<b>995</b>
<b>営業外収益</b>	<b>6</b>	<b>73</b>	<b>9</b>
受取利息	0	0	0
有価証券利息	0	0	—
その他	5	73	9
<b>営業外費用</b>	<b>47</b>	<b>37</b>	<b>28</b>
支払利息	47	37	28
その他	0	0	0
<b>経常利益</b>	<b>1,157</b>	<b>1,015</b>	<b>976</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,157</b>	<b>1,015</b>	<b>976</b>
法人税、住民税及び事業税	386	282	279
法人税等調整額	△22	38	31
<b>当期純利益</b>	<b>793</b>	<b>694</b>	<b>665</b>

# 貸借対照表

## 資産の部

(単位:百万円)

科目	第37期 (2021.3.31現在)	第38期 (2022.3.31現在)	第39期 (2023.3.31現在)
<b>流動資産</b>	<b>13,299</b>	<b>15,771</b>	<b>15,569</b>
現金及び預金	10,693	13,489	12,961
営業未収金	2,044	1,954	1,974
契約資産	—	0	2
一年以内に償還予定の関係会社社債	300	—	—
商品	25	30	54
貯蔵品	46	127	130
前払費用	186	167	168
未収収益	0	—	—
未収税金	—	—	273
その他	1	1	2
<b>固定資産</b>	<b>22,791</b>	<b>18,918</b>	<b>18,834</b>
有形固定資産	6,394	4,861	4,689
建物	185	175	181
器具及び備品	329	373	268
リース資産	5,651	4,312	4,235
建設仮勘定	228	—	3
無形固定資産	15,661	13,112	13,248
電話加入権	111	111	111
通信施設利用権	0	0	0
ソフトウェア	11,236	9,393	8,833
リース資産	3,825	3,010	3,704
ソフトウェア仮勘定	488	597	599
投資その他の資産	734	945	897
長期前払費用	93	77	75
敷金・保証金	161	161	147
繰延税金資産	480	706	674
<b>資産合計</b>	<b>36,090</b>	<b>34,689</b>	<b>34,404</b>

## 負債及び純資産の部

(単位:百万円)

科目	第37期 (2021.3.31現在)	第38期 (2022.3.31現在)	第39期 (2023.3.31現在)
<b>流動負債</b>	<b>4,228</b>	<b>3,882</b>	<b>3,331</b>
営業未払金	985	977	961
契約負債	—	638	441
一年以内に返済予定の長期借入金	993	989	1,006
リース債務	347	259	158
未払金	713	301	259
未払費用	145	115	101
未払法人税等	248	127	178
未払消費税等	565	251	—
預り金	11	11	13
賞与引当金	211	209	211
その他	6	0	0
<b>固定負債</b>	<b>5,493</b>	<b>4,479</b>	<b>4,214</b>
長期借入金	3,965	2,975	2,672
リース債務	324	193	119
退職給付引当金	1,123	1,216	1,317
役員退職慰労引当金	45	58	37
資産除去債務	34	35	66
<b>負債合計</b>	<b>9,722</b>	<b>8,361</b>	<b>7,545</b>
<b>株主資本</b>	<b>26,367</b>	<b>26,328</b>	<b>26,858</b>
資本金	4,500	4,500	4,500
資本剰余金	1,500	1,500	1,500
資本準備金	1,500	1,500	1,500
利益剰余金	20,367	20,328	20,858
利益準備金	90	90	90
その他利益剰余金	20,277	20,238	20,768
別途積立金	18,500	18,500	18,500
繰越利益剰余金	1,777	1,738	2,268
<b>純資産合計</b>	<b>26,367</b>	<b>26,328</b>	<b>26,858</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>36,090</b>	<b>34,689</b>	<b>34,404</b>

# 重要な会計方針に係る事項に関する注記(第39期)

## 1. 資産の評価基準及び評価方法

### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券…償却原価法(定額法)

### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品・貯蔵品…最終仕入原価法

## 2. 固定資産の減価償却の方法

### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)…定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物(「建物」に含めて表示。)については、定額法を採用しております。

なお、取得価額100千円以上200千円未満の少額減価償却資産については、一括3年償却の方法によっております。

### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)…定額法を採用しております。

なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間及び顧客との利用契約による契約年数に基づく定額法により償却しております。

### (3) 長期前払費用…定額法を採用しております。

### (4) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産…リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

## 3. 引当金の計上基準

### (1) 賞与引当金…賞与引当金は、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

### (2) 退職給付引当金…従業員の退職給付に備えるため、退職給付債務に基づき、当事業年度において発生している額を計上しております。

なお、退職給付にかかる期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法によっております。

### (3) 役員退職慰労引当金…役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社の内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## 4. 収益及び費用の計上基準

### (1) 収益

当社は、顧客との契約から生じる収益の範囲に含まれる取引について、5ステップ・アプローチ(注)に基づき、顧客への約束した財またはサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しております。

(注) ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時または充足するにつれて収益を認識する。

なお、履行義務が一時点で充足されるサービスについては、サービス提供完了時点で収益を認識しており、履行義務が一定期間にわたり充足されるサービスについては、サービス提供期間にわたり収益を認識しております。

また、ソフトウェアの受託開発等、当該事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合は、履行義務の進捗率に応じて収益を認識しており、進捗率の算出は、発生した原価にもとづくインプット法を適用しております。

### (2) 主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点

当社は、信用金庫業界のシステム中枢センターとして、しんきんインターネットバンキングサービスや投信窓販共同システムサービスなど各種システムサービスを提供しており、契約にもとづき、顧客によるサービスの利用実績に応じた利用料の形式でサービスの対価を請求しており、顧客がサービスを利用した時点で収益を認識しております。

また、当社は、インターネットホームページサービスなどにおいて特定の顧客の要望に応じてシステム開発を受託し、顧客に納品しており、ソフトウェア受託開発の進捗部分について成果の確実性が認められる場合は、その進捗率に応じて収益を認識しております。進捗率の算出は、発生した原価にもとづくインプット法を適用しております。

## 5. その他計算書類の作成の基本となる重要な事項

消費税等の会計処理…消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

# 主要システムサービスの取扱件数等・利用金庫数の推移

(利用金庫数、利用者・企業数等:年度末時点)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<b>全国信用金庫データ通信システム</b>					
取扱件数【千件】	323,389	326,170	333,364	331,065	340,265
テレ為替	306,395	308,882	314,679	312,125	321,858
MTデータ伝送為替	16,993	17,287	18,685	18,939	18,407
利用金庫数	259	255	254	254	254
<b>CDオンライン提携システム</b>					
取扱件数【千件】	256,218	263,763	252,964	254,981	267,080
CDオンライン提携	158,023	154,944	141,191	139,752	141,246
業態内提携	18,746	18,031	16,157	15,783	15,417
業態間提携	72,222	67,813	59,723	46,492	45,217
ゆうちょ銀行提携	8,837	10,457	10,556	10,459	10,486
セブン銀行提携	57,839	58,289	54,520	53,543	55,357
ビューアルツ提携	376	352	234	251	279
ローソン銀行提携	—	—	—	13,222	14,487
口座確認	98,195	108,819	111,772	115,228	125,834
利用金庫数	259	255	254	254	254
<b>しんきん共同自動通知(ANSWER)システム</b>					
取扱件数【千件】	48,168	46,074	43,063	41,176	39,405
利用金庫数	247	243	242	242	241
<b>しんきんデータ伝送システム</b>					
取扱件数【千件】	213,629	206,872	205,227	204,089	202,867
総合振込	6,838	6,567	6,728	6,994	6,922
国庫金振込	46,966	48,944	53,725	53,682	53,430
口座振替	134,044	126,369	121,305	121,145	120,830
その他	25,780	24,991	23,467	22,266	21,683
利用金庫数	259	255	254	254	254
<b>しんきん個人信用情報システム</b>					
利用金庫数	257	253	252	252	252
<b>ATMキャッシングシステム</b>					
取扱件数【千件】	1,435	1,319	909	885	846
利用金庫数					
借入(支払)業務	257	253	252	252	252
返済(入金)業務	217	214	213	213	213

(利用金庫数、利用者・企業数等:年度末時点)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	<b>2022年度</b>
<b>インターネットホームページサービス</b>					
利用金庫数	205	213	220	220	223
<b>Face To Faceネット</b>					
利用金庫数					
業務ネットワーク	259	255	254	254	254
インターネット接続ネットワーク	147	157	158	161	163
<b>投信窓販共同システム</b>					
口座数【千口】	807	855	912	1,020	1,122
投信インターネットサービス	73	89	112	156	199
利用金庫数	228	224	223	223	223
投信インターネットサービス	57	57	58	65	70
<b>デビットカードサービス</b>					
取扱件数【千件】	732	670	451	427	416
利用金庫数	259	255	254	254	254
<b>しんきん個人インターネットバンキングシステム</b>					
取扱件数【千件】	58,360	66,348	63,341	68,959	72,452
利用者数【千人】	910	974	1,074	1,150	1,266
利用金庫数	251	247	246	246	247
<b>しんきん法人インターネットバンキングシステム</b>					
取扱件数【千件】	213,901	232,683	244,780	268,813	295,853
利用企業数【千社】	361	381	412	445	477
利用金庫数	252	250	248	248	249
<b>ペイジー口座振替受付サービス</b>					
取扱件数(地公体含む)【千件】	1,422	1,392	1,146	1,293	1,201
収納機関数(地公体含む)	321	342	354	377	387
利用金庫数	259	255	254	254	254
<b>ネット口座振替受付サービス</b>					
取扱件数(地公体含む)【千件】	466	763	819	1,055	1,338
収納機関数(地公体含む)	60	72	92	127	172
利用金庫数	240	254	254	254	254

(利用金庫数、利用者・企業数等:年度末時点)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<b>しんきん電子マネーチャージサービス</b>					
取扱件数【千件】	10	11	5	0	0
利用金庫数	191	189	185	184	183
<b>しんきん電子記録債権システム</b>					
取扱件数【千件】	182	212	219	303	409
法人利用登録数(金融機関除く)【千社】	73	75	77	84	93
個人利用登録数【千人】	5	5	6	6	6
利用金庫数	258	254	253	253	253
<b>JICC個人信用情報システム</b>					
利用金庫数	129	133	135	135	133
<b>スマホ口座開設サービス</b>					
利用金庫数	39	38	37	40	42
<b>マルチペイメントネットワークシステム</b>					
取扱件数【千件】	1,675	1,888	2,315	2,838	3,408
インターネットバンキング方式	1,240	1,296	1,396	1,548	1,665
ANSWER方式	172	185	195	212	224
ダイレクト方式	263	407	724	1,077	1,518
利用金庫数					
インターネットバンキング方式	249	246	245	245	245
ANSWER方式	6	6	6	6	6
ダイレクト方式	255	251	251	251	251
<b>全信金EDI中継システム</b>					
利用金庫数	62	75	80	80	80
<b>しんきんオープンAPI共通基盤システム</b>					
利用金庫数	252	248	247	247	247
<b>しんきんバンキングアプリサービス</b>					
利用金庫数	—	43	48	55	58
<b>しんきん即時口座振替サービス</b>					
利用金庫数	—	253	254	254	254

# 株主信用金庫一覧

株主……255

信用金庫(254)

信金中央金庫

(2023年6月30日現在)

## 島根県(3)

しまね信用金庫  
日本海信用金庫  
島根中央信用金庫

## 鳥取県(3)

鳥取信用金庫  
米子信用金庫  
倉吉信用金庫

## 広島県(4)

広島信用金庫  
呉信用金庫  
しまなみ信用金庫  
広島みどり信用金庫

## 岡山県(7)

おかやま信用金庫  
水島信用金庫  
津山信用金庫  
玉島信用金庫  
備北信用金庫  
吉備信用金庫  
備前日生信用金庫

## 山口県(3)

萩山口信用金庫  
西中国信用金庫  
東山口信用金庫

## 愛媛県(4)

愛媛信用金庫  
宇和島信用金庫  
東予信用金庫  
川之江信用金庫

## 高知県(2)

幡多信用金庫  
高知信用金庫

## 香川県(2)

高松信用金庫  
観音寺信用金庫

## 大分県(3)

大分信用金庫  
大分みらい信用金庫  
日田信用金庫

## 福岡県(8)

福岡信用金庫  
福岡ひびき信用金庫  
大牟田柳川信用金庫  
筑後信用金庫  
飯塚信用金庫  
田川信用金庫  
大川信用金庫  
遠賀信用金庫

## 宮崎県(3)

宮崎第一信用金庫  
延岡信用金庫  
高鍋信用金庫

## 鹿児島県(3)

鹿児島信用金庫  
鹿児島相互信用金庫  
奄美大島信用金庫

## 沖縄県(1)

コザ信用金庫

## 佐賀県(4)

唐津信用金庫  
佐賀信用金庫  
伊万里信用金庫  
九州ひぜん信用金庫

## 長崎県(1)

たしばな信用金庫

## 滋賀県(3)

滋賀中央信用金庫  
長浜信用金庫  
湖東信用金庫

## 京都府(3)

京都信用金庫  
京都中央信用金庫  
京都北都信用金庫

## 大阪府(7)

大阪信用金庫  
大阪厚生信用金庫  
大阪シティ信用金庫  
大阪商工信用金庫  
永和信用金庫  
北おおさか信用金庫  
枚方信用金庫

## 奈良県(3)

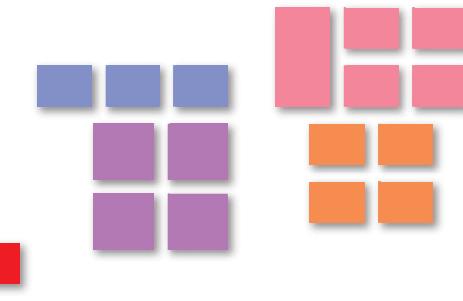
奈良信用金庫  
大和信用金庫  
奈良中央信用金庫

## 和歌山県(2)

新宮信用金庫  
きのくに信用金庫

## 兵庫県(11)

神戸信用金庫  
姫路信用金庫  
播州信用金庫  
兵庫信用金庫  
尼崎信用金庫  
日新信用金庫  
淡路信用金庫  
但馬信用金庫  
西兵庫信用金庫  
中兵庫信用金庫  
但陽信用金庫



## 愛知県(15)

愛知信用金庫  
豊橋信用金庫  
岡崎信用金庫  
いちい信用金庫  
瀬戸信用金庫  
半田信用金庫  
知多信用金庫  
豊川信用金庫  
豊田信用金庫  
碧海信用金庫  
西尾信用金庫  
蒲郡信用金庫  
尾西信用金庫  
中日信用金庫  
東春信用金庫

## 静岡県(9)

しづおか焼津信用金庫  
静清信用金庫  
浜松いわた信用金庫  
沼津信用金庫  
三島信用金庫  
富士宮信用金庫  
島田掛川信用金庫  
富士信用金庫  
遠州信用金庫

## 岐阜県(6)

岐阜信用金庫  
大垣西濃信用金庫  
高山信用金庫  
東濃信用金庫  
関信用金庫  
八幡信用金庫

## 三重県(4)

津信用金庫  
北伊勢上野信用金庫  
桑名三重信用金庫  
紀北信用金庫

## 北海道(20)

北海道信用金庫  
室蘭信用金庫  
空知信用金庫  
苫小牧信用金庫  
北門信用金庫  
伊達信用金庫  
北空知信用金庫  
日高信用金庫  
渡島信用金庫  
道南うみ街信用金庫  
旭川信用金庫  
稚内信用金庫  
留萌信用金庫  
北星信用金庫  
帶広信用金庫  
釧路信用金庫  
大地みらい信用金庫  
北見信用金庫  
網走信用金庫  
遠軽信用金庫

## 秋田県(2)

秋田信用金庫  
羽後信用金庫

## 青森県(2)

東奥信用金庫  
青い森信用金庫

## 山形県(4)

山形信用金庫  
米沢信用金庫  
鶴岡信用金庫  
新庄信用金庫

## 岩手県(6)

盛岡信用金庫  
宮古信用金庫  
一関信用金庫  
北上信用金庫  
花巻信用金庫  
水沢信用金庫

## 福島県(8)

会津信用金庫  
郡山信用金庫  
白河信用金庫  
須賀川信用金庫  
ひまわり信用金庫  
あぶくま信用金庫  
二本松信用金庫  
福島信用金庫

## 宮城県(5)

杜の都信用金庫  
宮城第一信用金庫  
石巻信用金庫  
仙南信用金庫  
気仙沼信用金庫

## 富山県(7)

富山信用金庫  
高岡信用金庫  
新湊信用金庫  
にいかわ信用金庫  
氷見伏木信用金庫  
砺波信用金庫  
石動信用金庫

## 新潟県(9)

新潟信用金庫  
長岡信用金庫  
三条信用金庫  
新発田信用金庫  
柏崎信用金庫  
上越信用金庫  
新井信用金庫  
村上信用金庫  
加茂信用金庫

## 群馬県(7)

高崎信用金庫  
桐生信用金庫  
アイオ一信用金庫  
利根郡信用金庫  
館林信用金庫  
北群馬信用金庫  
しののめ信用金庫

## 埼玉県(4)

埼玉縣信用金庫  
川口信用金庫  
青木信用金庫  
飯能信用金庫

## 東京都(23・1)

朝日信用金庫  
興産信用金庫  
さわやか信用金庫  
東京シティ信用金庫  
芝信用金庫  
東京東信用金庫  
東栄信用金庫  
亀有信用金庫  
小松川信用金庫  
足立成和信用金庫  
東京三協信用金庫  
西京信用金庫  
西武信用金庫  
城南信用金庫  
昭和信用金庫  
目黒信用金庫  
世田谷信用金庫  
東京信用金庫  
城北信用金庫  
瀧野川信用金庫  
巣鴨信用金庫  
青梅信用金庫  
多摩信用金庫  
信金中央金庫

## 千葉県(5)

千葉信用金庫  
銚子信用金庫  
東京ペイ信用金庫  
館山信用金庫  
佐原信用金庫

## 栃木県(6)

足利小山信用金庫  
栃木信用金庫  
鹿沼相互信用金庫  
佐野信用金庫  
大田原信用金庫  
烏山信用金庫

## 神奈川県(8)

横浜信用金庫  
かながわ信用金庫  
湘南信用金庫  
川崎信用金庫  
平塚信用金庫  
さがみ信用金庫  
中栄信用金庫  
中南信用金庫

## 石川県(4)

金沢信用金庫  
のと共栄信用金庫  
はくさん信用金庫  
興能信用金庫

## 山梨県(2)

甲府信用金庫  
山梨信用金庫

## 長野県(6)

長野信用金庫  
松本信用金庫  
上田信用金庫  
諏訪信用金庫  
飯田信用金庫  
アルプス中央信用金庫

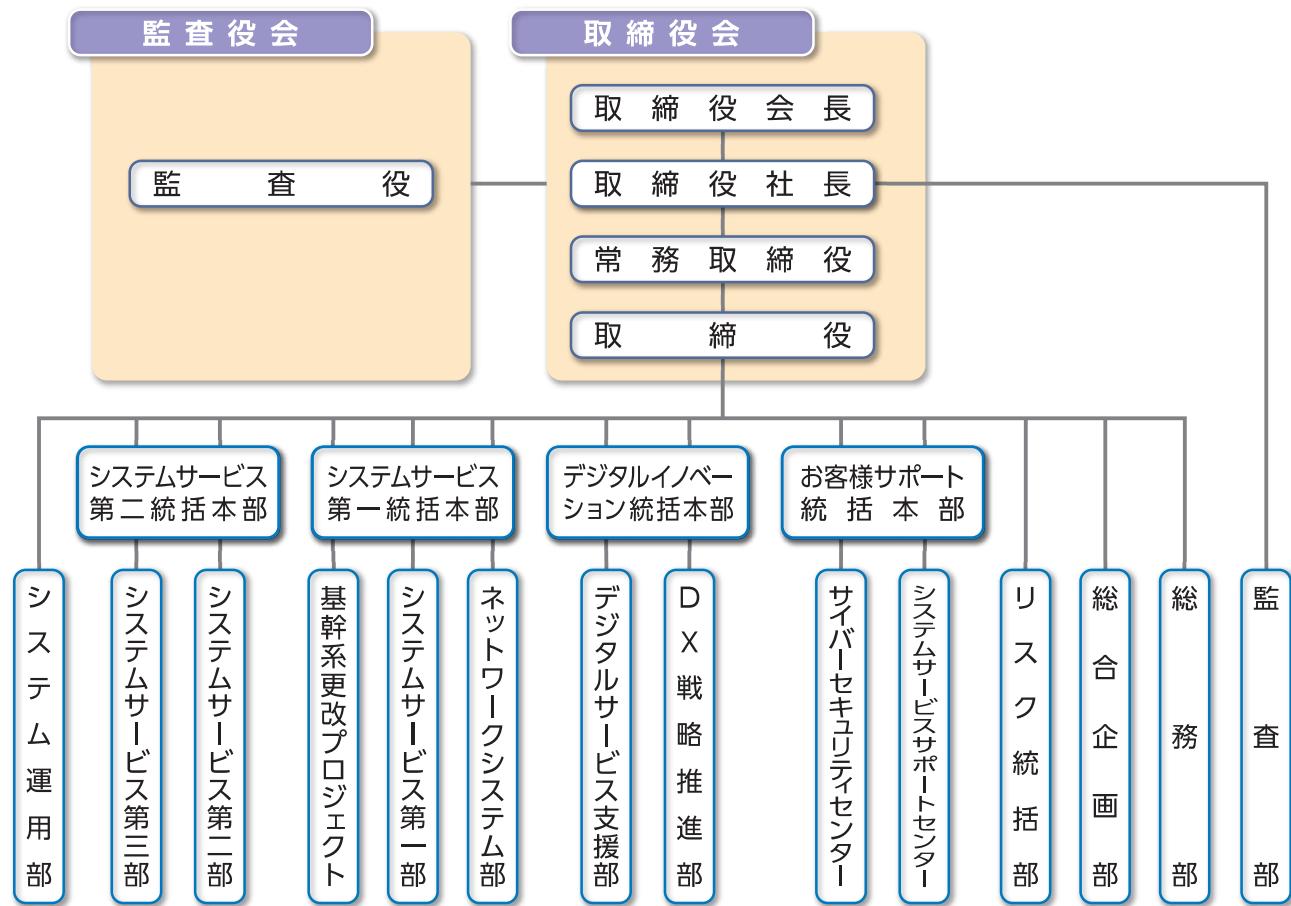
## 茨城県(2)

水戸信用金庫  
結城信用金庫

## 福井県(4)

福井信用金庫  
敦賀信用金庫  
小浜信用金庫  
越前信用金庫

組織圖



(2023年7月1日現在)

## 常勤役員・社員数

常勤役員・社員数 251名

常勤役員 6名  
社員 245名(2023年7月1日現在)

# 役員

(代)取締役会長	御室 健一郎	(全国信用金庫協会 会長)
(代)取締役社長	日沖 肇	
(代)常務取締役	高橋 秀充	
(代)常務取締役	岡田 学	
常勤取締役	寺迫 幹也	
常勤取締役	若松 史憲	
取締役	遠藤 修一	(大地みらい信用金庫 理事長)
取締役	樋口 郁雄	(福島信用金庫 理事長)
取締役	平松 廣司	(かながわ信用金庫 理事長)
取締役	澁谷 哲一	(東京東信用金庫 会長)
取締役	山地 清	(富山信用金庫 理事長)

取締役近藤実	(西尾信用金庫 会長)
取締役作田誠司	(尼崎信用金庫 理事長)
取締役武田龍雄	(広島信用金庫 会長)
取締役大橋和夫	(高松信用金庫 理事長)
取締役野村廣美	(福岡ひびき信用金庫 会長)
取締役板垣衛	(高鍋信用金庫 理事長)
取締役西野譲	(信金中央金庫 専務理事)
常勤監査役田中裕二	
監査役市川崇	(全国信用金庫協会 常務理事)
監査役藪下裕久	

(2023年7月1日現在)

# 沿革

1985(昭和60)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社しんきん情報システムセンター設立(2月)</li> <li>●全信金システム(内国為替、CDオンライン提携システム)の運営・管理に関する業務を全信連(現・信金中金)から継承(3月)</li> <li>●しんきん共同自動通知システムを全信連から継承(8月)</li> </ul>
1986(昭和61)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきんデータ伝送システム取扱開始(3月)</li> <li>●CDオンライン提携システムを全信金システムから分離(11月)</li> <li>●しんきん個人信用情報システム取扱開始(12月)</li> </ul>
1987(昭和62)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CDキャッシングシステム(現・ATMキャッシングシステム)取扱開始(11月)</li> </ul>
1994(平成6)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●神戸センター開設(4月)</li> </ul>
1995(平成7)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●厚木・神戸両センターによるバックアップ体制の構築(11月)</li> <li>●第4次全銀システム稼動に伴う全信金システムにおける対応(11月)</li> </ul>
1998(平成10)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Face To Faceネット取扱開始(3月)</li> <li>●投信窓販共同システム取扱開始(12月)</li> </ul>
2000(平成12)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デビットカードサービス取扱開始(3月)</li> </ul>
2002(平成14)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきん個人インターネットバンキングシステム取扱開始(3月)</li> </ul>
2003(平成15)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきん法人インターネットバンキングシステム取扱開始(7月)</li> <li>●第5次全銀システム稼動に伴う全信金システムにおける対応(11月)</li> </ul>
2005(平成17)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ペイジー口座振替受付サービス取扱開始(5月)</li> </ul>
2006(平成18)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プライバシーマーク取得(10月)</li> </ul>
2008(平成20)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネット口座振替受付サービス取扱開始(5月)</li> <li>●しんきん携帯電子マネーチャージサービス(現・しんきん電子マネーチャージサービス)取扱開始(5月)</li> </ul>
2009(平成21)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CDオンライン提携システム、しんきん共同自動通知システム更改(5月)</li> <li>●お客様向け「IBヘルプデスク」取扱開始(6月)</li> <li>●投信窓販共同システムにおける投信インターネットサービス取扱開始(9月)</li> </ul>
2010(平成22)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全信金システム、しんきんデータ伝送システム更改(5月)</li> </ul>
2011(平成23)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第6次全銀システム稼動に伴う全信金システムにおける対応(11月)</li> </ul>
2012(平成24)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業界に併存するインターネットバンキングシステムを統合した、しんきんインターネットバンキングシステム(個人・法人)取扱開始および信用金庫における順次移行の開始(9月)</li> </ul>
2013(平成25)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきんインターネットバンキングシステム(個人・法人)の信用金庫における移行完了(2月)</li> <li>●しんきん電子記録債権システム取扱開始(2月)</li> </ul>
2014(平成26)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●投信窓販共同システムにおけるNISA制度取扱開始(1月)</li> <li>●JICC個人信用情報システム取扱開始(4月)</li> </ul>
2015(平成27)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきんインターネットバンキングシステム(個人・法人)およびFTF業務ネットワークのバックアップシステムの運用開始(1月)</li> <li>●本社を東京都中央区八重洲に移転(3月)</li> </ul>
2016(平成28)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●投信窓販共同システムにおける各種制度(金融所得一体課税、マイナンバー制度、ジュニアNISA)対応(1月)</li> <li>●社内CSIRTとして「サイバーセキュリティ対策室」設置(1月)</li> <li>●基幹系システム更改(オープンシステム)(5月)</li> </ul>
2017(平成29)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スマホ口座開設サービス取扱開始(3月)</li> <li>●Face To Faceネットにおけるサイバーセキュリティ対策にかかる共同利用型サービス取扱開始(4月)</li> </ul>
2018(平成30)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全信金システム、CDオンライン提携システム、しんきん共同自動通知システム、しんきんデータ伝送システム更改(5月)</li> <li>●しんきんIB不正取引検知サービス取扱開始(10月)</li> <li>●全信金EDI中継システム取扱開始(12月)</li> </ul>
2019(平成31、令和1)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきんオープンAPI共通基盤システム取扱開始(2月)</li> <li>●しんきんバンキングアプリサービス取扱開始(4月)</li> <li>●しんきん即時口座振替サービス取扱開始(4月)</li> <li>●第7次全銀システム稼動に伴う全信金システムにおける対応(11月)</li> </ul>
2020(令和2)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しんきんインターネットバンキングシステム(個人・法人)更改(1月)</li> <li>●「サイバーセキュリティセンター」設置(1月)</li> <li>●しんきん電子記録債権システム更改(12月)</li> </ul>
2022(令和4)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●FTFクラウド接続サービス取扱開始(3月)</li> <li>●しんきん共通認証サービス(共通IDサービス)(9月)</li> <li>●しんきん共通認証サービス(eKYC本人確認サービス)(12月)</li> </ul>
2023(令和5)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Face To Faceネット(インターネット接続サービス)更改(3月)</li> </ul>

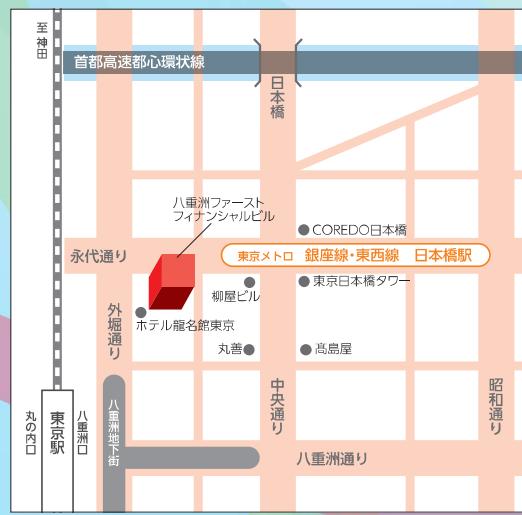
## 株式会社 しんきん情報システムセンター

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7

八重洲ファーストフィナンシャルビル12階

TEL.03-3245-1211(代) FAX.03-3270-8904

<https://www.shinkin.co.jp/ssc/>



UD FONT



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

印刷時に有害な廃液が出ない  
「水なし印刷」で印刷しています。